

京都工芸繊維大学同窓会  
(KIT同窓会)

# 会誌

No.5 平成23年

1949  
京都工芸繊維大学設立  
機械工芸学科  
色染工芸学科  
窯業工芸学科  
建築工芸学科／養蚕学科  
製糸紡績学科／繊維化学科

1944  
京都工業専門学校  
京都繊維専門学校  
1931  
京都高等蚕糸学校  
1914  
京都高等蚕業学校  
1902  
京都高等工芸学校  
1899  
京都蚕業講習所開設

1965  
工業短期大学部  
機械科／電気科  
大学院開設

1963  
電気工学科

1961  
生産機械工学科

1959  
繊維別科

1954  
意匠工芸学科  
工芸学専攻科  
繊維学専攻科

1951  
京都工芸繊維大学  
工業短期大学部併設  
機械電気科／化学工業科  
蚕糸別科

1975  
蚕糸生物学科

1974  
住環境学科

1972  
電子工学科

1970  
無機材料工学科

1969  
工業短期大学部  
機械工学科  
電気工学科  
工業化学科  
写真工学科

1968  
機械工学科  
繊維工学科

1967  
工業化学科

1988  
機械システム工学科  
電子情報工学科  
物質工学科／造形工学科  
大学院工芸科学研究科設置

1985  
応用生物学科

1983  
高分子学科

1977  
建築学科

2004  
国立大学法人 京都工芸繊維大学

1998  
デザイン経営工学科

1992  
工業短期大学部閉学

2006

工芸科学部設置  
応用生物学課程／生体分子工学課程  
高分子機能工学課程／物質工学課程  
電子システム工学課程／情報工学課程  
機械システム工学課程／造形工学課程  
デザイン経営工学課程／先端科学技術課程



## 「東北地方太平洋沖地震で被災された皆様へ」

平成 23 年 3 月 1 日の「東北地方太平洋沖地震」の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。  
また、犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様には、深くお悔みを申し上げます。一日も早く復興されますよう心からお祈り申し上げます。 会長 本城 博一

### 会 告

平成 23 年度の総会を、下記のとおり開催します。会員諸兄姉の多数のご参集をお願いします。  
同窓生はじめ、クラブ・同好会など関係者お誘い合せのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

#### 記

- 京都工芸繊維大学同窓会 平成 23 年度定期総会
  - 日 時 平成 23 年 6 月 25 日(土) 午後 4 時から
  - 場 所 ウェスティン都ホテル京都 西館 3 階 「コスモスホール」  
京都市東山区三条けあげ 電話 075-771-7111
  - 議 案 1. 会則の一部改正  
2. 人事  
3. 平成 22 年度事業報告  
4. 平成 22 年度決算報告  
5. 平成 22 年度会計監査報告  
6. 平成 23 年度事業計画案  
7. 平成 23 年度予算案  
8. その他
  - 報告事項 理事会報告

- 京都工芸繊維大学同窓会恒例の懇親会を下記により開催します。

#### 記

日 時 平成 23 年 6 月 25 日(土) 午後 6 時から  
場 所 ウェスティン都ホテル京都 西館 2 階 「愛宕の間」  
会 費 10,000 円 (ただし、学生会員は 3,000 円を当日受付にてお支払いください)。

#### 〈参加申込みについて〉

総会、懇親会への多数の参加をお待ちしております。

出欠の御返事は、別添郵便はがき(会員データ記入票の下部)により、6 月 10 日(金)までに必着するようにお願いします。

## 祝 「同窓会パビリオン」 オープン

学長 江島 義道



同窓会会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また、京都工芸繊維大学同窓会が平成22年6月から新たな装いでスタートされたこと、さらに12月からは同窓会パビリオンを拠点として活動を開始されたことに対して心からお祝いを申し上げます。

国立大学法人では、昨年4月から第二期の中期目標期間(平成22年～平成28年)が始まりました。本学では、昨年、第二期の当面の行動計画をAction KIT 2010として公表し、その計画に沿って大学発展のための諸施策を行なっています。

昨年は「無縁」という言葉で表される様々な事件が起きました。

年金をもらうために親の死を隠避していたという事件を契機に、多くの100歳を超えるお年寄りの生死が不明であることが発覚しました。また、親と子供のきずなが切れてしまっているという悲しい無縁事象が露わになったのです。

他方で、8月にチリ鉱山落盤事故があり、「人と人とのきずなの力」によって、事故発生から70日目に全員無事救出されるという「無縁」とは対極の感動的な事件がありました。

本年は、人と人の和(きずな)は組織の活力源泉となるという考えに基づき、「きずな」をキャッチフレーズとして、Action KIT 2010を具体化したいと考えています。

一つには、同窓会との連携プログラムを計画

しております。本学の同窓生と大学との交流を深めるためネットワークを強めたいという計画です。

他に九のプロジェクトを計画していますが、二例をご紹介します。一つは、本学と京都府立大学及び京都府立医科大学との連携事業を発展させる計画です。京都府の支援により、京都府立大学内に教養教育を共同化するための建築物が平成25年度末までに完成し、平成26年度から教養教育を共同化するという計画です。現在は、そのための準備作業を進めているところです。

もう一つは、本学と京都ノートルダム女子大学との施設の相互利用に関する連携事業です。

平成23年3月、本学の松ヶ崎東キャンパス内に3階建てのノートルダム館(約1500平米)が完成しました。これは、京都ノートルダム女子大学が耐震工事のため代替施設(講義用)として建設したもので、本学は敷地提供の協力を行ったものです。京都ノートルダム女子大学が利用しないときは、本学でも利用することができます。また、耐震工事が終了すれば、主に本学が利用することになります。

大学だけでなく、地域・団体等との様々な連携を行なっていますが、これらの活動は大学の発展の大きな力になると考えています。

同窓会会員の皆様には、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



オープンした「同窓会パビリオン」



東部構内に完成した「ノートルダム館」

## 会長就任ご挨拶



KIT 同窓会  
会長 本 城 博 一  
(建築科 昭和23年卒)

京都工芸繊維大学(KIT)同窓会の皆様方には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会の運営、発展と活性化のため夫々のお立場で格段のご支援とご協力を賜りまして誠に有難うございます。心より厚くお礼を申し上げます。

さて私は、先のKIT同窓会の定期総会におきまして会長の選任を賜りました。何分浅学非才の身ではございますが、愛する母校同窓会発展のために微力ながら全身全霊を尽くし最後のご奉公として汗を流す覚悟でございます。同窓会の皆様何卒よろしくご指導ご鞭撻のほど伏しお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学は、平成18年4月、教育研究組織の大改革により、工芸学部と繊維学部の二学部が改組統合され一学部(工芸科学部)の単科大学として新しくスタート致しました。この大改革、改組に伴いましてこれまで存在した二つの同窓会(京都工大会・衣笠同窓会)と平成22年3月卒業の第1期の卒業生を含めた同窓会の統合が必要となり、江島学長先生の献身的なお力添えと大学当局、両同窓会の親身なご協力とご支援により新生KIT同窓会が誕生致しました。これは、京都工芸繊維大学の永い歴史の中で後世に残る大改革でした。

昨年4月には改組以来初めての同窓生を迎えることが出来ました。私達同窓会は新鮮で瑞<sup>ミズミズ</sup>しい芽を大切に守り育てなければなりません。この若き芽こそが将来のKIT同窓会の担い手であり原動力です。同窓会の皆様どうか温かいお力添えとご支援をお願い申し上げます。

京都工芸繊維大学では、一昨年創立60周年という大変お目出たい節目の年を迎えました。その記念事業として、ソフト、ハード共に数々の記念事業を実施されました。特にその中で施設整備事業として、学生食堂(KIT HOUSE)、60周年記念館、駐車場等の施設がすべて完了

致しました。

今、一步学内に足を踏み入れますと、キャンパスの至る処から先人によって育まれた永い伝統と歴史の重み、それと同時に新しい息吹と爽やかな風の香りが伝わって参ります。本学は、創立60周年を機に心機一転、装いも新たに今後建学の理念に基づき、より一層躍進し発展することを心から祈念する次第です。

そして、私達同窓会の永年の懸案であり、待望久しかった同窓会館が大学当局、同窓生の温かいご支援とご協力により立派に完成致しました。設計は同窓生による設計コンペにより決定し、本学大学院角田准教授の案が採用されました。「未来への飛翔」という大変ユニークなデザインで、恰もKIT同窓会の輝かしい前途を象徴する建物です。この度事務局も新しいスタッフで本年3月開所の運びとなりました。今後此処を拠点として同窓会活動が益々活発化し、学内外の同窓生の交流と親睦の場としてその機能を十分発揮することを願うものです。

「不易流行」という言葉がありますが、不易とは、人間が人間である限り末代までも変えてはならないもの。しかし、不易のみでは進歩は望めません。流行とは、文字どおり時代と共に流れ行くものであり、その行く先をしっかりと見定めることは大事なことです。不易と流行を高いレベルで重ね合わせ融合させることが何事においても大切だということです。まさに、KIT同窓会の今後の課題は「不易流行」が大切で先人によって築かれた貴重な伝統と歴史を継承し、これを基礎<sup>イシズエ</sup>として、その上に現代をどう謳<sup>ウタ</sup>いあげるかということが私達に課せられた使命ではないでしょうか。同窓会の皆様の絶大なるご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

終わりに当たりまして、母校とKIT同窓会の益々のご発展を祈念し会長就任のご挨拶と致します。

## 就任のご挨拶

京都工芸繊維大学  
理事・副学長  
林 哲 介



京都工芸繊維大学同窓会の皆さま、はじめまして。

幼少時からずっと京都に居ながらこれまで接点のなかった工繊大に、平成22年4月に赴任したところです。私は、京大理学部を卒業後まもなくから、5年前に定年退職するまでのほぼ40年余りをずっと、京大で物理学(光物性)の実験屋として過ごしてきました。退職の後4年間、名古屋の小さな私大の運営に携わりましたが、その後旧知の江島学長のお誘いで本学に着任することになりました。長年所属していたのが一般教育・教養教育を担当する部署であったことから、物理学の教育研究の傍ら、大学教育や教養教育の議論に大分長い間関わって参りました。

大学の教育はこの数年大きく変わろうとしています。一昔は、多彩な研究の土壌の上で学生が自由に学ぶ、いわば学生は肥えた畑で育つ農産物にたとえられました。近年は、まるで規格化・機械化された工場から排出される工業製品にも譬えられるような感があります。卒業生には国際的に通用する「質保証」ということが叫ばれ、学生が身につけるべき能力「学士力」として、「知識・技能・態度・創造的思考力」の4つをあげて細かく規定するなど、大学の「教育力」が強調されています。「コミュニケーション力」、「課題解決能力」、「批判的思考力」等々と、「……力」という表現が多用されることや、相変わらず大学が皆、文科省・教育審議会の掛け声のもとに一方を向いて走っている現状は、国際的というよりは実に日本的だと感じられてなりません。

今なによりも大切なのは、「教育 teaching」から「学び learning」への転換であると思います。大学で用意されるあらゆる場で、すべての学生が自身の意思に基づいて主体的に学ぶようになることが「質保証」にとって最も本質的なことです。一方通行の講義を受動的に聞く授業から、自ら考え調べ発言し討論する、そんな活動が多彩に織り込まれた授業へと、大学教育の転換が望まれます。そんなことを考えながら、しばらくの間微力を尽くしたいと思います。

## みなさんとの知恵の連鎖で

京都工芸繊維大学  
理事・副学長 竹 永 睦 生

京都工芸繊維大学同窓会会員の皆様、こんにちは。研究、産学官連携を担当させていただいております、副学長の竹永睦生です。

平素より、本学の経営、運営にご支援とご指導を賜り、厚く御礼を申し上げます。

きょうは、本学の社会連携、地域連携、産学連携活動の一端をご紹介します。

従来このような活動を中心的に推進してまいりましたのは、皆様に多くのご支援を戴いた地域共同研究センター(地共同)でした。このセンターは、平成2年に設立され、地域の産業界等と協働し、さまざまな活動を行ってまいりました。そのほか関連する組織としてインキュベーションセンター、大学院ベンチャーラボラトリー、そして知財本部が地域社会との連携活動を行ってまいりました。

これらの活動をよりわかりやすく、ワンストップショッピングとするため、平成21年4月に、産学官連携推進本部を設置し、その傘下に従来の地共同、インキュベーションセンターを統合した創造連携センター、院生から学部生まで対象範囲を拡大したベンチャーラボ、そしてこれらの活動に横串をさす知財センターを配置しました。

また本学と京都市は昨年9月、連携協力協定を締結し、地域の活性化、産業振興を目指しています。これらの活動は、これまで協定を結び交流が盛んでありました京丹後市等の地域社会及び地域産業界との協力関係を拡大し、学術と技術の交流を進め、大学が情報のハブとなることによって大学と地域がもつ知恵の連鎖、連環を構築したいとの思いから始まっています。

京都工芸繊維大学同窓会の皆様の絶大なるご支援のもと、私どもは、本学の伝統、学術的蓄積をフルに活用して、京都生まれの世界育ちを目指して、教育研究、社会貢献につとめてまいりますので一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

工芸科学部長・工芸科学研究科長として

研究科長・工芸科学部長  
森 迫 清 貴

( 建工 昭和51年卒 )  
( 建工 昭和53年院修 )



ご存知のように国の財政状況は極めて厳しくなり、また国際社会のなかでの日本の立ち位置も難しい時代に入っています。2010年4月から国立大学法人2回目の中期計画期間(6年間)に入り、財政面だけでなく大学法人評価でも益々厳しくなるようです。

本学は、一つの学部、一つの大学院研究科で学生を育成しています。教員は生命物質科学系、設計工学系、造形科学系および基盤科学系の4つのグループに属しています。学部長・研究科長として、昨年4月の就任以来、これらの系の長4人と協議しながら、大学における教育研究の運営にあたっていますが、上述のような情勢の中で、舵取りを担う責任の重さを痛感しています。

本学は長期ビジョンとして「人間と自然の調和」、「感性と知性の融合」及び「高い倫理性に基づく技術」を目指す教育研究によって、国際的高度専門技術者を育成することを謳っています。このビジョンは今般においても決して揺らぐものではありません。本学学生に対してよくいわれている真面目さに加えて、京都工芸繊維大学卒業生・修了生が、世界で活躍できる人材となるよう、教員群は、教育プログラム等を継続的に検討、改革しながら、学部各課程(旧学科に対応)や大学院各専攻のミッションを明確にするとともに、その達成に向けて努力しています。

教育研究は、なかなかその成果が目に見えるものとはなりにくい面はありますが、本学がこれまでも増して「小さいながらも輝く理工系大学」としての評価が得られるよう、学生、教職員一同とともに努力して参ります。

本学および前身校の同窓生の皆様におかれましては、是非、篤いご支援をお願いします。

## 母校の応援団

KIT 同窓会  
副会長 中 村 淳  
( 建工 昭和32年卒 )



同窓会の皆様方には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会の活性化と発展のためにご尽力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

思えば、平成18年に発足した「京都工芸繊維大学同窓会(KIT 同窓会)」に、大学法人化第1期の卒業生を迎え、新たな第一歩を踏み出す記念すべき年に、副会長を仰せつかりましたが、微力な自分がこの大役を果たせるのか、身のひきしまる思いです。

いま母校は、法人化後、江島学長先生のもと単科大学としての確固たる基盤を構築され、特色ある人材育成に社会の関心が高まっていると思います。更なる母校の発展のためにも、在学生、卒業生の支援を図るKIT同窓会の基盤の拡充が求められるように思います。

振り返ると、それぞれ長い伝統を持つ京都工大会と衣笠同窓会が「KIT同窓会」に参加したことで、画期的な第一歩を踏み出すことができたと思います。これは、母校にいち早く新同窓会が立ち上げられたことにより、既存の同窓会の意見集約に拍車がかかり、三者統合となりました。この成果をもたらした苦渋のプロセスに携わった方々に敬意を表する次第です。

KIT同窓会の基盤の拡充の一つに、創立60周年記念事業として建てられた「同窓会パビリオン」があります。3月2日に開所式があり、活動拠点が整備されました。会員の皆様の交流と親睦の場としての活用が期待されます。

とわ言え、ハード(建物)があってもソフト(活用)がなければ、基盤が拡充されたとは言えません。同窓会の当面する課題に、会費の徴収・会員の動員などが挙げられますが、これらの改善策もソフトであり、同窓会の運営もソフトです。このようなソフトを充実することが、基盤の拡充だと考えます。

同窓会の目的にある「交流と親睦を図ることをもって母校の発展に寄与する」に向かって、いま求められることは、KIT同窓会が母校の応援団となってエールを送り、母校の発展に寄与するソフトの拡充ではないでしょうか。

## 副会長就任挨拶 松ヶ崎に思う

KIT 同窓会

副会長 伊藤 一雄

(短機電 昭和36年卒)



私が母校に在籍していたのは、60年安保で世間が騒然としていた時代である。よくデモがあり休講になるというより、休講にしてしまうことが多かった。当時は島津製作所の放射線機器工場の一技術者として勤めていた。会社が退けると工場のあった西大路三条から市電で高木町まで通うのである。学校までの道はまだ舗装されていなかったように思う。授業中外をみると比叡山に登るケーブルがよく見えた。昼間の疲れでつい居眠りをすることも多かった。気候のよいときなど、授業をサボり仲間と高野川のほとりを四条まで歩き、高島屋の裏にあった「歌声喫茶」に行き蚤声を張り上げていた。さらに行きつけの呑み屋によく立ち寄ったものである。そこのお女将さんの話では工織大生はまじめな勉強家が多いとのことであった。私は、その後工学とは異なる世界へ進んだが、松ヶ崎での青春時代は懐かしい。

京都には全国規模の大学が多くあり、その中で母校はどちらかといえば地味な大学である。しかし、それぞれの専門家の世界では信用度は高い。仕事はミスなくしっかりとこなす人材が多い。いぶし銀のように目立たないがきらりと光っているのが京都工芸繊維大学の卒業生の特徴だろうと思う。

その母校が工芸科学部と一本化されたのを機会に、KIT 同窓会として新たな出発を迎えることになった。今回、その副会長に選出され、いささか緊張している。国立大学も独立行政法人となり、経済的にも自立しなくてはならないことが多いだろう。また、大学間の競争も激化するだろう。そんなとき頼りになるのが、現在さまざまな分野で活躍されている卒業生諸氏である。皆様の親睦と交流を深め、母校と後輩への物心両面の支援ために同窓会活動に今まで以上に協力いただくことを切望している。

## 就任挨拶

KIT 同窓会

副会長 谷垣 弘明

(製紡 昭和43年卒)



同窓会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。この度、衣笠同窓会のご推薦を受け京都工芸繊維大学同窓会(KIT 同窓会)の副会長にご推挙を頂き7月3日の総会でご承認を頂きました谷垣弘明です。

新しいKIT 同窓会のスタートに参画でき皆様のお役に立てればと思っております。なにかとご指導いただきたくお願い申し上げます。

私は昭和43年に繊維学部、製糸紡績学科を卒業いたしました。日ごろはご無沙汰にて失礼を致しておりましたが、私の娘も当大学を卒業しており、親子2代にわたってお世話になった大学へのお礼の気持ちと、仕事面でも先輩諸氏に大変お世話になりました、その感謝の気持ちで、これを期にお役に立てればと思っております。

現在も現役で仕事をしておりまして、何かと不都合があるかもしれませんが、宜しく願い申し上げます。

大学の同窓会との関わりは、昭和54年5月から始まった衣笠ゴルフ会に参加させていただいたのが、最初の交流でした。以来30数年ゴルフ会のお世話をさせていただき、多くの先輩諸氏のお世話になりながら、現在も衣笠ゴルフ会の幹事をやらせていただいております。近年は工大会の中のマコーン会との合同コンペを開催し、いち早く工大会と衣笠会の交流を始めました。

ゴルフ会の高齢化も進み若い人の参加を求めています。先輩風を吹かしたりしませんので気軽にご参加ください。

今回KIT 同窓会として統合された形の中で、過去の経緯もふまえ「仲良きことは美しきかな」と仲の良い同窓会を確立したいと考えております。

そもそも同窓会とは、同窓生が旧交を温め、年代を超えた付き合い、そして都合よければビジネスの交差点としての役割をはたし、また後輩諸氏の指導など同窓生でなくては出来ないことがあると思います。

期を同じくして、京都工芸繊維大学の60周年事業が行われ、同窓会パビリオンが竣工されました。松ヶ崎KIT会館として、今後の同窓会活動の拠点としての有意義な活用を期待しております。

KIT 同窓会の準備期間から携わってこられた先輩諸氏のご苦勞を無駄にしないよう、またこの同窓会がますます発展するよう頑張る所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願い申し上げます。

# 新生京都工芸繊維大学同窓会を同窓生のオアシスに

KIT 同窓会  
副会長 三好 明  
(繊維化学科 昭和31年卒)



「地球は宇宙のオアシスだ」これは宇宙飛行士が、生命のひとかけらもない暗闇の宇宙のはるかかなたから地球をみて、思わず発した言葉です。出身大学と大学同窓会はこれに似て、卒業生のオアシスといえるかもしれません。

平成22年4月、京都工芸繊維大学(KIT)同窓会、京都工大会、衣笠同窓会の3者が統合を果たし、新生KIT同窓会がスタートしました。これと期を同じくして、衣笠同窓会はKIT同窓会の支部の位置付けで存続することになりました。衣笠同窓会の今後については、組織、運営、解消時期に関し改めて討議決定することになっています。新生KIT同窓会に一体化するまでは、旧両同窓会システムの融合、フレーム造りが主な作業でした。これからはさらに精緻な統合実務を進めてゆくこととなります。

変革を迎える今、継続してKIT同窓会副会長の任を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく願いいたします。ご挨拶に替え、今後の統合実務の方途について私見を述べます。

さて、われわれのオアシスをどう創るか。

## 1. 支部活動の活性化 支部申告のお願い

KIT同窓会の発足にあたり、早急に進めなければならない問題として、同窓会活動の実体である支部組織と活動を周知する課題があります。旧両同窓会の交流を深めると共に新卒同窓生を受け入れるため、統合可能なものはその方向へ進めるのが妥当でしょう。支部活動を活性化するために、支部を資金支援することが決まっています。支部は同窓会、大学の情報伝達の役割も果たしています。支部には、①学部、学科などで集合した一般的な支部 ②都府県単位の地域支部 ③文化、体育活動をしている支

部 ④上記に属さない支部等があります。この中ですでに統合している支部、統合の方向にある支部等の例をご紹介します。

①は旧両同窓会にそれぞれあります。

②は衣笠同窓会に34都府県支部があります。この中には、旧工大会の方が加入しているもの、統合準備中のものが一部ありますが、本格的な統合はこれからです。私が会員になっている衣笠同窓会大阪支部では、KIT同窓会大阪支部として新発足の方向で進めることを最近決めたところです。各支部においてもご検討の程お願いします。

③の文化活動で交流が進んでいる例としては、能楽を愛好する交扇会(140名)があります。本会は、平成2年工芸学部と繊維学部の能楽同好者で発足し、工織の読み方を交扇としたものです。年2回本格的な発表会を行い、母校の能楽部の復活を指向しています。体育活動では、KITゴルフ会(80名)があり、衣笠ゴルフ同好会とマッコン会(機織科)ゴルフ同好会とは合同コンペをスタートしています。旧工芸学部他学科OBの参加も始まっています。

④では、例えばさつき会(50名)があります。繊維学部女子卒業生のグループで、毎年5月にOGの立場で情報交換を行っています。旧工大会の参画により、さらに有意義な支部になると期待しています。

支部担当の方は是非KIT事務局に支部の内容を申告していただくようお願いします。早急に同窓会支部組織を把握し、統合によってさらに活性化し、新卒同窓生が参画しやすいものとなるようお願いしています。

## 2. 統合実務の推進に総力を

KIT同窓会の統合実務としてこれからの中



長期的展望を踏まえた財務設計、組織活性化の仕組み、会誌発行事業の内容、大学の教育研究の支援等々、知恵を絞るべき多くの課題があります。

こうした同窓会の基礎的問題に対し、それぞれのアイテムについて委員会を設置してはどうでしょうか。同窓会の中には司法書士、公認会計士、雇用コンサルタント、弁理士、技術士等々数多くの有資格者や各種業界のスペシャリスト、ジェネラリストがおられます。これらの方々は十分なノウハウをもっておられ、そのパワーを結集すれば信頼性の高い仕組み、システムの構築が可能になります。同窓生がそれぞれの無形資産を委員会に提供していただけるならば、統合実務推進において大きなエネルギー源となることは間違いありません。

### 3. コミュニティビジネスの立ち上げ

失業者の増加と失業期間の長期化が大きな社会問題になっていますが、本学では就職機関は整備されているということでもあります。今後の厳しい雇用環境を予測すると、同窓会も将来に備え、同窓社会人の転職、再就職支援、大学と密接な連携の基に本学新卒者や既卒、留年未就職者の就職を支援する体制を整える必要があるように思います。

私が過去属していた繊維産業は、構造不況に対応するため、企業は大量の雇用縮小を必要とし、各企業は人材開発部門や人材開発子会社を設けました。企業の人材開発に関わり、退職後も人材開発企業や産業雇用安全センターに勤務した同窓の方々と、同窓生の就職の手助けができないか検討したことがあります。プロジェクトのメンバーは、人材開発の潤沢な実務経験をもち、高度な資格を有する方々でした。上記は同窓生の無形資産を活用しようとするケースに他なりません。同窓生が困っているときには、同窓会のシステムティックな対応が何より必要です。「お互いがお互いのために」こそが、同窓会の最も優先されるべき理念ですから。

上記は一例ですが、われわれのもつ各種の無

形資産を組み合わせ、コミュニティビジネスを立上げていきましょう。

### 4. KIT 同窓会会費納入のお願い

旧両同窓会で最も差異があった同窓会会費の一元化の課題は、両システムを共存させることで決着をみました。平成22年7月の衣笠同窓会総会で決定の後、KIT 同窓会総会で以下のように決まりました。

「正会員は、年額3,000円を納付する。会費を前納する場合は、2年分5,700円、3年分8,400円、4年分11,100円、5年分13,800円。終身会費30,000円を納付する。」

KIT 同窓会会費の納入は、KIT 同窓会の運営、秩序を守る上で重要です。オアシスの水が枯渇しないよう、KIT 同窓会会費の納入をよろしくお願いします。

### 5. これからの同窓会の理念

本年度の年頭挨拶でわが母校の江島学長は、「今年のキーワードは絆としたい」といわれました。絆を大事にしていた日本が、絆のない社会になってしまいました。絆無視の効率主義は幸福に繋がりません。

今、おそらく数百年に一度のグローバルな構造改革の時期にさしかかっています。そうした中、ハーバード大学のサンデル教授の「正義論」は大きな反響をよんでいます。サンデル教授の政治哲学の核心は正義と善の関係で、「善」が欠如した「正義」(アメリカでは法義、権利)から「善」を前提とする「正義」への転換こそが、今を生き延びるための哲学であるという考え方です。アメリカのリベラリズムの「正義」の基では、リーマンショックを呼び世界的な大不況となりました。サンデル教授は、「相互扶助」を考え方の基盤に置いています。

組織は永い歴史をもって尊しとするのではなく、未来が開けているかどうかの方がより大切です。わが同窓会も「絆」「相互扶助」「お互いがお互いのために」をモットーに、これから始まる統合実務のスイッチを共に押しましょう。

# KIT 同窓会定期総会及び懇親会報告

KIT 同窓会前総務委員長 森 肇  
(蚕生 昭和 57 年卒)

## KIT 同窓会 定期総会

平成 22 年 7 月 3 日(土)16 時から約 1 時間、「ウェスティン都ホテル京都」西館 2 階「比叡の間」において定期総会を開催いたしました。出席者は、松原藤好会長代行外 68 名でした。

議事に先立ち議長に松原藤好会長代行が選出され、松原会長代行の開会挨拶がありました。引き続き、森肇総務委員長から、平成 22 年 6 月 12 日に開催された KIT 同窓会理事会において、次の協議事項を審議した旨報告があり了承されました。

- (1) 会則の改正について
- (2) 役員選出：任期満了に伴う会長、副会長、理事、監事、専務理事の選出及び顧問の選出
- (3) 平成 21 年度事業報告
- (4) 平成 21 年度決算報告
- (5) 平成 21 年度会計監査報告
- (6) 平成 22 年度事業計画(案)について
- (7) 平成 22 年度予算(案)について
- (8) その他(平成 22 年度定期総会及び懇親会について)

以上の報告の後、以下の議題について審議を行いました。

### 1. 会則の改正

総務委員長から、会則の一部改正について説明があり、会則(案)の一部を修正の上、審議の結果、全会一致で承認されました。

### 2. 役員選出：任期満了に伴う会長、副会長、理事、監事、専務理事の選出及び顧問の選出

会長：総務委員長から、役員を選出については会則第 10 条に会長候補は、理事の互選によるとなっております、本城博一氏を本総会に会長候補者として提案(推薦)させていただきたい



旨、説明があった。次いで、松原会長代行から、本人の就任受諾が得られれば、本総会に提案(推薦)したい旨の発言に続き、本城副会長に本同窓会会長の受諾の確認をしたところ、快諾を得たので、本城副会長を本同窓会の次期会長として承認願いたい旨諮られ、審議の結果、全会一致で承認されました。

副会長：総務委員長から、6 月 12 日に開催された理事会において、次の 4 名を副会長候補者として本総会に提案(推薦)することになった旨の説明があった後、松原会長代行から、4 名を副会長として、提案(推薦)方承認願いたい旨諮られ、審議の結果、全会一致で 4 名の副会長が承認されました。(五十音順)  
伊藤一雄 氏 (工業短期大学部 機械電気科 昭和 36 年卒業)

谷垣弘明 氏 (繊維学部 製糸紡績学科 昭和 43 年卒業)

中村 淳 氏 (工芸学部 建築工芸学科 昭和 32 年卒業)

三好 明 氏 (繊維学部 繊維化学科 昭和 31 年卒業)

理事：総務委員長から、6 月 12 日に開催された理事会において、理事の選出について議論した結果、配付資料記載の 105 名を本総会に提案(推薦)することになった旨の説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

監事：総務委員長から、現監事の福西興至氏及び西村太良氏の両名に、平成 22 年度も引き続き、監事候補者として理事会から提案(推薦)したい旨説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

専務理事：現専務理事の上田正勝氏に引き続き専務理事としてお願いすることにしたい旨の説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

顧問：総務委員長から、平成 22 年度からの顧問は、理事会で古川敏一様と松原藤好様の 2 名が選出された旨の説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

### 3. 平成 21 年度事業報告

総務委員長から、配付資料(パンフレット)に基づき、報告があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

### 4. 平成 21 年度決算報告

中森伸行会計担当理事から、配付資料(パンフレット)に基づき、報告があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。



## 5. 平成 21 年度会計監査報告

福西興至監事から、平成 21 年度の収支決算書、一般会計貸借対照表の 2 点について、平成 22 年 4 月 24 日(土)に母校の同窓会事務局において、会計担当理事から提出された資料を基に、領収書、帳簿、預貯金通帳及び現金等について、逐一照合し精査したところ、異常は認められなかった旨報告があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

## 6. 平成 22 年度事業計画

総務委員長から、以下に掲げる事項について、配付資料(パンフレット)に基づき説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

- (1) KIT 同窓会定期総会の開催、及び KIT 同窓会懇親会の開催
- (2) 会則の改正：会員及び会費・役員・支部・総務委員会
- (3) 役員選出：任期満了に伴う会長、副会長、理事、監事、専務理事の選出及び顧問の選出
- (4) 会誌の発行：第 4 号を発行し、卒業生、在学生及び教職員に配布する
- (5) 会員名簿の維持管理：会員(約 31,000 名)データの有償管理
- (6) 同窓会ホームページの維持管理
- (7) 卒業記念品の贈呈
- (8) 学生行事の支援：松ヶ崎祭などの学生行事の支援
- (9) その他：臨時総会及び臨時理事会等の対応

## 7. 平成 22 年度予算

中森理事から、配付資料(パンフレット)に基づき説明があった後、審議の結果、全会一致で承認されました。

## 8. その他

松原藤好会長代行から、任期満了に伴う、退任の挨拶と本城博一次期会長から、次期会長の就任挨拶がありました。

## KIT 同窓会 懇親会

ウェスティン都ホテル京都 西館 2 階「愛宕の間」において、平成 22 年 7 月 3 日(土)18 時から約 2 時間、KIT 同窓会懇親会を開催いたしました。出席者は 77 名でした。

KIT 同窓会副会長本城博一氏の開会宣言の後、KIT 同窓会会長代行松原藤好氏と KIT 同窓会顧問古川敏一氏から開会の挨拶がありました。続いてご来賓の方々の紹介(京都工芸繊維大学長江島義道先生、元学長巽友正先生、前学長木村光佑先生、理事・副学長古山正雄先生、理事・副学長竹永睦生先生、理事・副学長林哲介先生、理事・事務局長林一義様、大学院工芸科学研究科長森迫清貴先生)がありました。

京都工芸繊維大学長江島義道先生から来賓代表の祝辞があり、京都工芸繊維大学元学長巽友正先生に乾杯のご発声をいただき、いよいよ懇親会が始まりました。

途中で次期会長の本城博一様と次期副会長の伊藤一雄様、谷垣弘明様、中村 淳様、三好明様のご挨拶がありました。

最後に、参加者全員で学歌斉唱を行い、三好明様より中締めのご挨拶と松原藤好会長代行から、閉会の挨拶を頂き、大変盛大な中での懇親会がお開きとなりました。



## KIT 同窓会 平成21年度収支決算書

(一般会計)

自 平成21年 4月 1日  
至 平成22年 3月 31日 単位：円

収 入				支 出			
科 目	摘 要	予 算 額	決 算 額	科 目	摘 要	予 算 額	決 算 額
前年度繰越金				会員テーク管理費			
会 費				ホームページ作成費			
前納会費				電算処理費			
学生会費				会誌発送費			
賛助金				卒業記念品費			
学生会費				学生活動後援費			
賛助金				通 信 費			
会誌掲載費				振替手数料			
京都工大会繰越金				人 件 費			
利 息				交 通 費			
				雑 費			
				予 備 費			
				預 貯 金			
				繰 越 金			
合 計				合 計			

理事(会計担当) 中 森 伸 行 ㊟  
平成22年 4月24日監査しましたが異常ありません。  
監事 西 村 太 良 ㊟  
監事 福 西 興 至 ㊟

## KIT 同窓会 平成21年度貸借対照表

(一般会計)

平成22年 3月31日現在 単位：円

借 方			貸 方		
科 目	摘 要	決 算 額	科 目	摘 要	決 算 額
有 銀行預金			繰 越 金		
高 振 替					
現 金					
合 計			合 計		

理事(会計担当) 中 森 伸 行 ㊟  
平成22年 4月24日監査いたしましたが異常ありません。  
監事 西 村 太 良 ㊟  
監事 福 西 興 至 ㊟

## KIT 同窓会 平成22年度収支予算書

(一般会計)

自 平成22年 4月 1日  
至 平成23年 3月 31日 単位：円

収 入			支 出		
科 目	摘 要	予 算 額	科 目	摘 要	予 算 額
前年度繰越金			会員テーク管理費		
会 費			ホームページ作業費		
前納会費			会 誌 費		
学生会費			電算処理費		
賛助金			会誌発送費		
学生会費			会 議 費		
賛助金			卒業記念品費		
利 息			学生活動後援費		
			印 刷 費		
			事 務 費		
			通 信 費		
			振替手数料		
			人 件 費		
			交 通 費		
			雑 費		
			予 備 費		
			預 貯 金		
			繰 越 金		
合 計			合 計		

## 同窓会パビリオンのご紹介

KIT 同窓会  
総務委員長 森 本 一 成

平成 22 年 3 月に工織会館の西側に同窓会パビリオンが完成しました。その特徴的なフォルムなどが評価され、建築雑誌「新建築」に取り上げられました。玄関に通じるスロープの回りの植栽はこれから春に向けてのびてその美しさを増すものと思われま

す。この新装パビリオンへの KIT 同窓会事務室移転については秋頃から準備に取りかかり、同年 12 月に工芸本館から移ることができました。

パビリオンの内部について簡単にご紹介します。入口を入って左手が事務室のカウンターで、右手の日当りのよい場所にくつろぎスペースがあります。その奥にはコミュニケーション用の丸テーブルが 3 つあり、12 名程度が同時に使えます。その東側に書棚が壁一面に設けられており、広いスペースを確保してあります。同窓会に関連する資料をこれから充実させて行きたいと思

いますので、大学に関する過去の様々な記録や、これまでの支部活動の記録などをお持ち頂けると幸いです。さらに奥に入った左手に会議室を設け、工芸本館で使用していました机と椅子を入れて利用しています。

旧事務室から運びました資料等の整理が少し出来ました平成 23 年 3 月初めに、同窓会事務所の開所式を執り行いました。テープカット会場には、林事務局長と森迫研究科長ならびにこの建物を設計された角田先生にもお越し頂きました。

同窓会パビリオンは工織会館の敷地内にありますので、入口の門は常に閉じられています。そのため直接同窓会事務室に出入りすることができません。OB・OG の皆さまにはお手数ですが、ご訪問の際は事前に事務室へお電話を頂きますようお願い申し上げます。

今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



左から森迫研究科長、三好副会長、本城会長、谷垣副会長、林事務局長

	申請者		プログラム名等	実施日時	申請金額	事業報告 記事執筆者	
	所属等	氏名					
学部	1	応用生物学部門	原田 繁春	iGEM(国際遺伝子改変マシーンコンテスト) 世界大会参加プロジェクト	22.11. 5~ 22.11. 8	50,000 <sup>円</sup>	山口政光
	2	機械システム工学 部門	森西 晃嗣	技術者教育認定(JABEE)プログラム	22.11. 7~ 22.11. 9	50,000	西田秀利
	3	情報工学部門	若杉耕一郎	情報工学課程 3 回生に向けた修士課程による 研究発表	23. 1.28	50,000	
	4	デザイン学部門	大谷 芳夫	造形科学域が実施する卒業制作展(京めっせ)	23. 2.10~ 23. 2.13	50,000	
	5	生体分子工学部門	吉川 正和	生体分子工学課程平成 22 年度卒業研究発表 会	23. 2.24	50,000	
	6	物質工学部門	塚原 安久	物質工学課程の教育改善の取り組みの効率化 事業	23. 2.10	50,000	
	7	建築造形学部門	長坂 大	造形工学課程の意匠・建築・文化コース合同 の卒業制作展	23. 2.11~ 23. 2.13	50,000	
大学院	1	情報工学部門	中森 伸行	情報工学専攻修士 1 回生による研究中間報告 会	23. 1.26	50,000	
	2	先端ファイブ科学 部門	森本 一成	先端ファイブ科学シンポジウム並びに公開 講演会	23. 2.20	50,000	森本 一成
	3	デザイン学部門	山本建太郎	デザイン科学専攻修士特別制作展	23. 2. 9~ 23. 2.13	50,000	
	4	高分子機能工学部門	宮田 貴章	高分子機能工学専攻大学院生の学会発表支援 用設備の充実	22. 4. 1~ 23. 3.31	50,000	

## 国際遺伝子改変マシーンコンテスト参加プロジェクト： ベストポスター賞受賞(本学「ゆとり世代」の世界への挑戦)

山口政光

(応用生物学部門・染色体工学研究室)

京都工芸繊維大学(KIT)同窓会からの iGEM (国際遺伝子改変マシーンコンテスト)参加プロジェクトへのご支援ありがとうございました。平成 22 年 11 月 5 日~8 日、米国マサチューセッツ工科大学(MIT)で開催されました iGEM 世界大会に本学チーム「KIT-Kyoto」が初参戦し、予想以上に大きな成果を挙げる事ができました。iGEM は、ハーバード大学やケンブリッ



ジ大学など世界有数の大学チームの秀才学部生が中心となり、設計・作製した遺伝子改変生物あるいはそのパーツを登録し、またプロジェクト考案のためのミーティングや実験ノートチームの作成する Web ページで紹介し、その総合力を競う国際大会です。本学チームは、応用生物学課程 2 回生を中心とする 11 名と造形工学課程 3 回生 2 名から構成され、大学院生 6 名がインストラクターやアドバイザーとして、また井沢真吾先生(応用生物学部門・微生物工学研究室)と、学生に頼まれれば No と言えない私がスーパーバイザーとして参加しました。

平成 22 年度は世界各地から 130 チーム、約 1500 名が参加し、日本からは東大、東工大、京大、阪大など 9 チームが参加しました。本学「ゆとり世代」のユニークな発想と美的センスが生み出したプロジェクト「大腸菌ペン」を紹介



介した KIT-Kyoto チーム Web ページは、大会前から iGEM 人気ホームページランキングでも 130 チーム中 5 位と人気があり、平成 22 年 11 月 4 日の Yahoo Japan トップニュースでも「大腸菌アート」として大きく報道され注目を集めていました。

本大会での口頭発表(もちろん英語)では審査員から「良いプレゼンテーションだった」、「ジョークが気に入った」などのコメントがなされ、会場全体からも大きな拍手をいただきました。本学「ゆとり世代」は、なかなか度胸も英会話力も、外人受けするユーモアのセンスもあるようです。「KIT-Kyoto」は、いくつかの評価基準を満たしたチームに絶対評価として与えられる金賞を獲得し、また部門賞としてベストポスター賞([http://2010.igem.org/Main\\_Page](http://2010.igem.org/Main_Page))を獲得しました。特にベストポスター賞はポスターの質とポスターセッションでのプレゼンテーションを含めて総合的に審査され、130 チーム中最も高い評価を得たチームのみに授与されるものです。この部門別特別賞の単独受賞は、何と日本のチームとして初の快挙です。また別にドイツのフライバーグ大学が主催したフォトコンテストにおいて、本学「ゆとり世代」は「キムワイプピンポン」という単なるガリ勉



秀才達には思いもつかない独創的ムービーを製作し“The Cuckoo Award”も受賞し、賞品(木彫りのカッコウ時計)をいただきました。このように大きな成果をあげられたのは、「MIT」風にカッコイイ響きの「KIT」の名を世界に広めたいというチーム一丸となった強い思いがあつてのものだと思います。

MIT 大講堂に集まった 1500 名の大観衆の前で、審査員代表者から“The Best Poster Award goes to KIT-Kyoto.”と発表され(やったあ!まさか!ありえへん!),皆で大歓声の中、壇上に駆け上がった時の感動をチーム全員で共有できたことを感謝しています。そして連日徹夜でがんばって、このような大仕事を初参加で成し遂げた本学「ゆとり世代」を誇りに思います。学力低下しているはずの、そして集合時間に必ず遅れてくる「ゆとり世代」(引率教員はたいへん困ります)ですが、もうバカにすることができなくなってしまいました。帰国後も各新聞社からの取材を受け、「KIT」の名を広めることができたのではないかと思います。本年度からは強敵中国チームが待ち受けるアジア予選が始まります。アジア予選を勝ち残り再び世界大会へ出場できるように、今後も「KIT-Kyoto」へのご支援をよろしく願いいたします。



## 機械システム工学課程の JABEE 認定教育システムについて

西田 秀利  
(機械システム工学部門 教授)



KIT 同窓会会員諸氏には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、KIT 同窓会誌の紙面をお借りして、機械システム工学課程において取り組んでいる JABEE 認定教育システムについて紹介したいと思います。

大学教育の質的保証が求められている昨今、機械システム工学課程ではその一環として、日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)の認定を平成 17 年度に取得し、平成 22 年度に継続認定審査を受審し、継続認定を取得しました。

JABEE とは平成 11 年に設立された技術系学協会と連携して技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体であり、JABEE 認定制度は大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満足しているかどうかを外部機関が公平に評価し、その要求水準を満足している教育プログラムを認定する専門認定制度です。また、JABEE は技術者教育の実質的同等性を相互承認するための国際協定であるワシントン・アコード(Washington Accord)に加盟しており、JABEE 認定教育プログラムの修了生は自国・地域の認定機関が認定したプログラム修了者と同様に専門レベルで技術業を行うための教育要件を満たしていることが認められます。

機械システム工学課程の JABEE 認定教育システムにおいては、教育目的を定め、獲得すべき資質を学習・教育目標として掲げて教育を実施しています。(具体的には、本課程の HP を参照していただければ幸いです。<http://www.mech.kit.ac.jp/student/sug/>) また、組織としては、システムを統括する教育改革委員会(Action)を中心として、教育計画専門部会におい

て計画(Plan)し、学生指導専門部会および教育改善専門部会が学生と教員に対する実務を担当(Do)し、その結果を教育点検・評価専門部会が点検評価(Check)する PDCA サイクルを形成しており、外部評価委員会および機械システム工学部門会議と密接に連携することにより、教育システムを運用しています。

本教育システムの特徴は、人間と環境を重視した教育(KIT マインド・環境マインドを備えた人材の育成)・基盤 4 力学(材料力学・熱力学・流体力学・機械力学)を重視した教育・多様な創造デザイン技術者育成教育(専門知識に立脚した「知のデザイン能力」、ものづくり技術に関わる「技のデザイン能力」、発想力としての「夢デザイン能力」からなる「自己デザイン能力」を備えた人材育成)であり、学生は学期ごとに学習目標・学習計画書および達成度自己評価表を提出し、学生自身が自己点検するシステムとなっています。学生や教員にとっては負担が強いられますが、教育の質的保証を担保する意味で一丸となって取り組んでいます。

同窓会会員諸氏におかれましては、この機械システム工学課程の取り組みを今後ともご理解、ご支援いただきますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様の一層のご活躍を祈念して筆を置きたいと思います。





# 先端ファイブロ科学シンポジウムならびに公開講演会

森本 一成

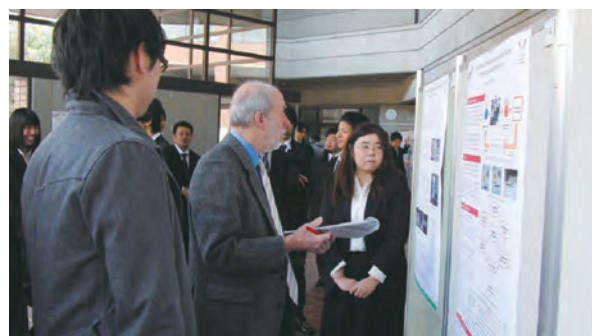
(先端ファイブロ科学専攻長)

2011年2月20日(日)に大学センターホールのロビーを使って先端ファイブロ科学シンポジウムを開催しました。発表形式は英語ポスターを用いた発表とし、先端ファイブロ科学専攻の教員らが研究内容とポスターの評価を行いました。9時～10時10分に修士1回生の学生31名と学部4回生(先端科学技術コース)の学生3名が発表しました。優秀ポスターとして3件が選ばれ、1位は修士1回生の淡路谷朋子さんの「織物光学特性における反射率分布と織構造の関係」でした。10時30分～11時40分までは修士2回生の学生37名が発表しました。優秀ポスターには5件が選ばれ、1位は國重昌志君の「エレクトロスピニング法によるポチシルセスキオキサン繊維のモルフォロジー制御に関する研究」でした。どの発表でも英語のポスターを仕上げるのに苦労した後が見られましたが、講演会に招待した2人の講師からは、『いい研究がたくさんあるが、もっと自分の研究内容をうまく訴えるポスターが作成できるといいですね。』との意見を頂きました。

20日午後2時からは先端ファイブロ科学専攻公開講演会を大学センターホールにて開催しました。最初の講師は Umaru Semo Ishiaku 教授(Ahmadu Bello University, Nigeria)で、講演タイトルは「A Study of High Density Polyethylene / Agricultural Wastes Composites and Their Applications」でした。もう一人の講師は Norman Alm 博士(Honorary Research Fellow, University of Dundee, Scotland, UK)で、講演タイトルは「Involving Users in Research into Improving Assistive Technology for People with Disabilities」でした。どちらもこれから世界で活躍する学生達にとって非常に刺激的

で魅力に溢れた講演でした。

最後に、これらのシンポジウムならびに講演会にかかる経費の一部は、KIT 同窓会教育支援事業費を充てることで、成功裏に終わることができましたことをご報告して、お礼の言葉とさせていただきます。有難うございました。



## 「松ヶ崎デザイン会」 多彩なデザイン・マインドの萌芽を踏まえて

松ヶ崎デザイン会 会長 増山和夫



「松ヶ崎デザイン会」の前身である「松ヶ崎意匠会」は、図案科創立77周年、意匠工芸学科設立25周年記念祝賀会を機に設立されました。かねてより、図案科ならびに意匠工芸学科卒業の諸兄弟の間で要望が強かった学科同窓会の設立総会が、1979年11月23日、松ヶ崎の母校に近いホテルで開催されました。総会後の記念祝賀会には、当時の学長吉田徳之助先生をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、吉田徳之助学長、宇野稔工芸学部長、京都工大会理事長圓城佳逸氏(代読右橋俊一氏)よりご祝辞をいただきました。爾来ほぼ27年の間、「京都工大会」と密接な関係を保ちつつ、「意匠工芸学科小史」の刊行、会報「松ヶ崎意匠会」の発行、デザインフォーラムの開催、卒業制作展への補助など、数々の事業を実施し、卒業生・大学・学生相互の交流に貢献してきました。2004年5月29日には「意匠工芸学科設立50周年を祝う会」を盛大に開催することもできました。しかしながら、一方では、1988年の「意匠工芸学科」から「造形工学科」への学科合併、1998年のデザイン経営工学科の創設、2004年の大学の法人化、それに続く教育研究組織の変更を含む大学改組、同窓会組織の統合へ向けての取り組みなどがありました。これら「松ヶ崎意匠会」を取り巻く状況の変化と、会員とその意識の変容等を見据えて名称変更、会則の見直しを実施しました。

2006年4月、「松ヶ崎意匠会」は「松ヶ崎デザイン会」へと移行しました。それは、大学改組に伴う「京都工芸繊維大学同窓会」の発足を念頭に、会員範囲を少なくともデザイン経営工学部門の卒業生・修了生まで広げるべきとの思いからでした。加えて、母校において全学的規模で実施されている「科学と芸術の出会い」「工学とデザインの融合」のためのカリキュラム、特色ある教育プログラムによる感性教育などを踏まえると、多様な領域でそれぞれのデザイン・マインドを持った卒業生、修了生が生まれ、会

員範囲をさらに広げるべきではとの思いに至ります。そのことによって京都工芸繊維大学同窓会の一支部としての性格をより一層強化することが可能になるとも考えます。これまでの「松ヶ崎意匠会」の活動に対する同窓各位の熱意は、上記「意匠工芸学科設立50周年を祝う会」が盛会であったことに象徴されています。「松ヶ崎デザイン会」は、このような諸先輩の母校に対する熱い想いと、産業界、デザイン界における実績と伝統の上に、従来の意匠系を越えて、広くデザインに関心のある卒業生・修了生にも開かれたものとして再出発しました。「デザイン」がいまや単に造形・スタイリングに留まらないことは周知のとおりです。本会の活動が、多様なデザイン思考の醸成と涵養の一助となれば大変うれしいことです。

本会は「京都工芸繊維大学同窓会」の下部組織として積極的に参加することを旨とし、独自の会費を廃止しました。事務局を京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科デザイン学部門に置き、基本的に、独自のホームページ、電子メール等によるネットワーク型の組織運営をしています。学部の卒業制作展、大学院デザイン科学専攻の修了制作展、講演会、ホームカミングデーの案内などの情報伝達、広報活動などもそれによって行っています。会員のメールアドレスは、md0001-join@resmail.cis.kit.ac.jpへの空メールの送信と自動応答によりメーリングリストに登録されます。なお、毎年松ヶ崎祭期間中に実施されるホームカミングデーと、そこでのデザインフォーラムなどの事業は、大学・学生と共同し、独立採算で行っています。デザインフォーラムは本同窓会独自の活動の中核であり、企業や社会における会員のデザイン活動や創作活動の成果報告とディスカッションは、それを契機とした会員相互の交流、研鑽に加え、在学学生、院生にとっても意義深く、魅力ある同窓会であることを目指すうえで欠くことのできないものです。

## 衣笠祿栄会 琵琶湖例会

福井 忠勝

(養蚕科 昭和26年卒)

養蚕科 26 年卒と 28 年卒の合同クラス会である「衣笠祿栄会」は毎年一回、全国持ち回りで気楽に開催している。今年は京都 A 班が幹事となって、長く続いた猛暑が少し下火になった 9 月 11 日(土)遊覧船で琵琶湖周航にでかけることとなった。傘寿を越した者とは思えぬくらい元気な姿で全国から 14 名(前夜泊まり 5 名あり)遠くは札幌からも参加してくれた。

午前 9 時 30 分リオ・グランデ号に乗船し浜大津港を出航した。左には比叡山、右には近江富士と呼ばれる美しい三上山ミカミヤマを眺めながら船は北へと進む。気がかりだった湖面の藻草が徐々に消え、水がきれいになっていく。左手に浮御堂をみて琵琶湖大橋をくぐり抜けた頃から水深 40m と深くはないが湖面が段々と澄み切っていく。

最初の上陸地は沖の島。周囲 6.8km、450 名の人に住んでいて漁業中心の暮らしと聞く。湖沼の島で人が住む例は世界でも少なく、学術的にも注目されているらしい。更に北へ進むと湖面に突出した「沖のしら石」と呼ばれる四つの裸岩が我々を迎えてくれる。その頃右手には泰然とした姿の多景島が目に入る。昔、竹が茂っていたので別名竹島とも云うらしい。湖面は徐々に濃さを増し最も深い 104m 地点を通過する。

楽しみの昼食は船内弁当、ビールで乾杯。喉を潤しそれぞれの席で昔話がはずんでいる。船は更に北へ進み、“竹に生まるる鶯の竹生島詣急がん…”と謡曲でうたわれている竹生島もうでを強行した。古くから信仰を集めてきた竹生島には国宝や重要文化財が数多く点在する。湖岸から 6km の沖合いに浮かぶ周囲 2km の小島。165 段の急勾配の石段が我々を苦しめる。大弁才天を祀る宝巖寺。唐門や船廊下など 1300 年前に行基上人が開いた古刹であちらこちらに風

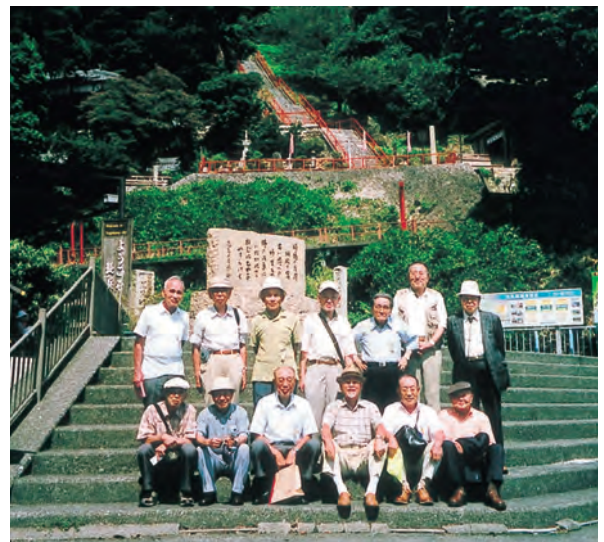
格が漂う。都久夫須磨神社の本殿は伏見城の遺構で棧唐戸の彫刻は立派で国宝にふさわしい。

船内ではびわこボランティアグループの人達が湖岸に自生する葦草で作った笛で琵琶湖にまつわる歌を次々と演奏し我々を楽しませてくれた。

“遠くかすむは彦根城 波に暮れゆく竹生島  
三井の晩鐘 音絶えて なにすすり鳴く浜  
千鳥” (びわこ周航の歌より)

ジッと目を閉じて演奏を聴くうちに勝手に口ずさんでいた。日本一大きな湖の上をのんびりと船を走らせていると自然に明治時代にタイムスリップし逞しく生き抜いた近江商人の晴れ姿を想い浮かべていた。比良の山々から吹きおろす涼しい風に秋が近づきつつあることを感じながら終点の長浜港へ上陸した。5 時間ばかりの船旅だったが絶好の天気恵まれ、今更ながら琵琶湖の偉大さを感じ満喫することが出来た。

来年度例会の世話人も全員の合意で内定した。京都嵐山で豪商角倉了以翁の別邸を借りて開催することとなった。元気な姿で再会することを誓い合いながら散会した。



# 人間 本野精吾教授 — そのデザイン力とヒューマニズム

石沢 加津子 (意・昭和51卒)



油絵制作中の本野教授【初公開】  
(本野博子様提供 2002年)



図面を描く本野教授  
中村克己氏(図・昭3卒)  
のアルバムより【初公開】  
(中村映弥氏提供)



吉田時代の京都高等工芸学校  
昭和元年頃の学年合同写真  
(西村みゆき様提供)【初公開】



私が本野邸を訪ねたのは、2002年9月10日であった。その数年前から京都高等工芸時代の構内や授業の様子が知りたくて、図案科ご卒業の方々にお会いする度に、一期一会の思いで、質問して来たが、本野教授のことを最も魅力的に楽しげに語られたのは、長年(大阪・京都・東京の)3同窓美術展に出品しておられた山北栄寿氏(昭17卒)であった。大抵は、「子爵の家系で雲の上のかた」としか言われず、やっと、神戸市西区まで訪問した青山武雄氏(昭2卒・メンソレータムのロゴマーク制作者)は、身震いして「(授業は)難しく、さっぱりわからなかった」と話された。

本野精吾教授のことは、学生時代の授業で、船舶のインテリアデザイン(三菱重工等150件)や宮崎木材工業とご縁の深い、正に本野教授と同じ道を辿られた野口茂先生や、高島屋設計部長としてインテリアや家具デザイン、船舶、車輛インテリアで活躍された樋口治先生(昭11卒・日本インテリアデザイナー協会名誉理事)からお聞きした。樋口先生は「高等工芸時代のことを書き留め、後世に伝えることが必要」と考えて、起草されたが未完に終わった。

私が本野博子様をお訪ねして談笑できたのは、福田卯之吉氏(昭13卒)が同級生の、本野教授の三男・本野東一氏(モダンアート協会会員・大阪芸大教授)と良いお付き合いを続けて来られた御蔭でもあった。「お義母さんが厳しく言われると、いつもかばってくださった優しいお義父さんでした」と懐かしそうに話された。

また、本野教授は姿勢がよく、立ち居振る舞いが綺麗なことで、定評があった。上の写真中、目立って美しい方が本野教授である。留学生活で本場のダンスやバレエの美しさを鑑賞され、帰国後、日本人にも世界に通用するマナーや姿勢が身につくダンスを広めようとしたのだろう。卒業後も度々、相談に訪れた西村進氏(昭3卒)には、(蟹股ではなく)まず真直ぐ足を運べる指導からされたと言う。「ダンスでも南画でも、何でも(根本から)研究される方」だったというのも頷ける。この姿勢は、単にパーティーダンスを楽しむという生半可なものではないからだ。

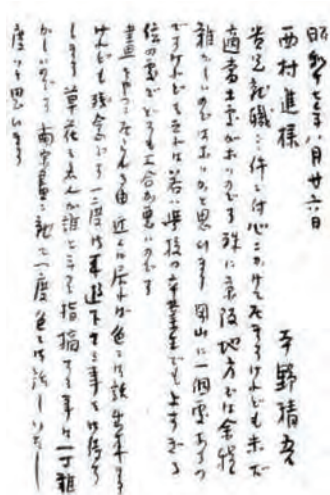
ご長男には祖父「盛亨」氏の一文字を入れながらも、5人のご子息全員に「一」を付けられたのは、「みんな満遍に(平等に)」という意だそうだ。



京都高等工芸学校・造形実習室(中央~右)  
(本野教授設計) 昭和3年アルバムより【初公開】



ピエロの人形は西村家で大切に飾られていた



本野教授より西村進氏への手紙



玄関脇の丸テーブルは、サイドテーブルにもなるが元は子供の成長に応じて使える「用と美」の傑作



本野東一氏の染色作品がコンクリートの壁面を明るく温か味を感じさせた



「石窗」先生から「竹窗」雅兄への手紙の一部〔初公開〕



正面からは麗しき乙女の燭台に見えるが、横を向けると全く別のスタイルの像になるブックエンド(本野邸にて)



本野邸 (2002年)  
(右は) 本野博子夫人



およそ、住居は門構えを見ると、住人の人柄がわかるが、本野邸の門柱は1m程で可愛らしく、ホッととして玄関に進める。楽に門扉越しに、新聞を受け取ったり、話したりできる高さだ。背の高い石塀で囲い込んだり、威張った感じのものではない。寧ろ、写真撮影をすると、門が低いことで、何と大きな洋館に見えるかというトリックに気付いた。ここでもまた、本野教授のリベラルな発想に感心させられる。

昨年の年頭を飾って、KIT 美術工芸資料館で「本野精吾展」が開催され、現在の3号館の建設工事の記録映像を、興味深く見ることができた。その折「造形実習室の写真はない」……「人形は(ピエロ以外の)3体が残っている」と表示されていたので、この紙面でご紹介したが、事前に分かっていたらご協力できたのにと惜しまれる。今後は、広くコラボレーションを呼びかけて、展覧会を充実させていくことが必要ではないかと思われる。

まだまだ、ご紹介したい資料は山積みですが、限られた紙面の都合上、またの機会と致します。

猶、本文に掲載した貴重な写真は、中村映弥氏(行動美術協会会員・三重県美術教諭)から2003年に快く贈って頂いたアルバムに負う所が大きい。また、本野教授の作品や書簡が西村家で大切に保管されていたことも、有難い事であった。

末筆ながら、多くの大先輩方々にご家族の誠実なご協力に、深く感謝申し上げます。

そして何より、寄稿が遅くなったにも拘らず、私との約束を守り通して下さった本野博子様とご家族に、頭の下がる思いで、心より厚く御礼申し上げます。

〈本文中の写真転載禁止〉

## ○平成23年度衣笠同窓会 理事会・総会のご案内

森 肇

平成23年度衣笠同窓会理事会・総会を下記の通り開催いたします。皆様におかれましてはご多忙かと存じますが、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

- 日時 平成23年6月25日(土)午後2時から  
場所 ウェスティン都ホテル京都  
議題 1. 平成22年度事業報告及び決算報告  
2. 平成22年度会計監査報告  
3. 平成23年度事業計画及び予算案  
4. 衣笠同窓会の役員選出  
5. 衣笠同窓会の規約改正  
6. その他

衣笠同窓会の理事会・総会のみにご出席される方は、大変お手数ですが、次の所までご連絡くださいませ。電話 075-724-7776(森)

なお、当日は京都工芸繊維大学同窓会(KIT同窓会)の総会と懇親会が開催されます(総会は午後4時から、懇親会は午後6時からの予定)。KIT同窓会の総会・懇親会に御出席される方は必ず同封の葉書にてご連絡下さい。

## ○衣笠同窓会大阪支部例会の ご案内

大阪支部長 前川 輝彦

(織化 昭和35年卒)

大阪支部では例会・懇親会を年4回開催しております。大阪(京神和を含む)在住・在勤の同窓諸兄姉お誘いの上ご参加くださいます様、ご案内申し上げます。

2011年例会日程

第1回(開催済み)

1月12日(第2水曜日) 18時~20時

第2回(開催済み)

4月13日(第2水曜日) 18時~20時

第3回 7月13日(第2水曜日) 18時~20時

第4回 10月12日(第2水曜日) 18時~20時

場所: パノラマスカイレストランアサヒ

松下IMPビル26階(最上階)

大阪市中央区城見1-3-7

TEL: 06-6946-8448

最寄駅: JR大阪城公園駅、京橋駅、地

下鉄大阪ビジネスパーク駅

会費 約4千円

参加は直接会場にお越し下さい。

## ○KITゴルフ会会員募集

谷垣 弘明

この度、新たにKIT同窓会が発足したのを期にKITゴルフ会としてスタートしました。

同窓生、また職員の方も含め会員を募集いたします。

年2回のコンペを実施しています。

会長は土井健司、坪井弘光氏(現在会員100名程度です)。

連絡先は下記幹事までお願いします。

幹事: 森橋俊文 電話: 090-3266-6094

谷垣弘明 電話: 090-5152-5824

次回は10月18日(火)の予定です。

## ○京都工芸繊維大学能楽部 OB会交扇会

### “初夏の発表会”のご案内

井上 良一

(織化 昭和33年卒)

平成2年に呱呱の声をあげた交扇会は、今回で第37回となります。当会は在学中に部員であった方だけでなく、卒業生、職員、家族で能楽を愛好する方も会員としています。この小文がお目に留まりましたら、どうぞお出で頂きますようお願い申し上げます。

開催日時: 平成23年6月4日(土) 11時始

会場: 大阪・山中能舞台(地下鉄御堂筋線  
西田辺 下車徒歩5分)

今回は久しぶりの能舞台での開催です。素謡は大阪ゆかりの曲を選びました。

雨月、芦刈、梅枝、弱法師、松虫、岩船です。いつもは定常的に参加する会員のシテ番から演目を頂くのですが、新しい試みとして広く同窓の同好各位から出演のご希望を募ります。

久しぶりに謡ってみるか……、勤め先で稽古して趣味となった……地域でお稽古する機会が出来た……謡との出会い、思い出は色々であろうと思いますが、その様なお話を聞かせていただくのも楽しいことだと存じます。事務局へ一報下さい。

勿論、当日にふらりと会場へ来ていただくのも大歓迎です。番組の詳細はこれからの準備ですが仕舞も数番はご覧いただけるでしょう。

(交扇会の活動についてはKIT会誌No.4 p.49及び次のホームページを参照下さい。)

<http://www.geocities.jp/kousenkai/index.html>

事務局: 〒520-2144 大津市大萱2丁目34番地

1-704 井上良一

TEL&FAX: 077-543-1850

Eメール: r-inoue@themis.ocn.ne.jp

## 留学生パーティー

京都工芸繊維大学  
理事・副学長 古山 正雄

昨年12月、日航プリンセスホテルにおいて、恒例の学長主催「留学生パーティー」が華やかに開催された。22年度のパーティーは、学長の肝いりで、祇園町から舞妓さんと芸妓さんに来ていただき、会場は華やかな雰囲気包まれた。留学生の京都の思い出作りには、大変効果のある趣向で、留学生は舞妓さんとの記念撮影に列をなし、大変な盛況ぶりである。科学と芸術、伝統と先端の融合を目指す我が大学だが、日々実験や実習に明け暮れる留学生に、日本の伝統文化、特に邦楽や舞踊を体験していただく機会を提供することは、なかなか難しい。その意味では今回の試みは、日常目にする機会が少ない伝統文化に触れ、帰国後も日本に関する話題を増やす良い機会となったのではなかろうか。この件では造形工学部門の福田民郎先生には大変お世話になった。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、同窓会の皆様には、これまであまり報告する機会がなかった本学の国際交流活動に関して、近年の概要をご報告したい。本学の国際交流活動は、極めて活発である。海外の協定大学及び研究機関は約50校におよび中にはタイの農水省の研究機関等も含まれている。一般に協定を結ぶと学生交流覚え書きによって、年間2名程度の学生を受け入れ、替わりに本学からも同数程度の学生を派遣し、互いに学費を相殺する形で、安定的かつ継続的に交流を行うわけである。受け入れた学生は、まりこうじ会館に

優先入居することができる。これが基本的な交流のシステムであるが、より積極的な国の支援策として、国費留学生の優先配置枠5名を活用して4年間で博士の学位を取得させる制度や、海外インターンシップ制度により本学大学院生を海外での企業研修に参加させる制度、あるいは本学の国際交流基金を用いた国際学会での発表支援など、多数のメニューを並行的に運用している。

個々の交流メニューは対応する財源の種別によって分類されるため、極めて多様な事業展開となっており、一言で説明するのは難しい。本学の教育指針にそって概括すると、まず「国際的に活躍できる高度専門技術者の育成」を実現するために学部生の段階から英語教育、実践的な英語コミュニケーション能力を涵養することが大切である。このため、夏期には英国のリーズ大学、春期にはオーストラリアのクイーンズランドにおいて短期語学研修を実施している。学生の負担を軽減するために、学生後援会費から一部を支援していただいているが、選抜に当たっては、TOEICの点数や英語教員による面接を実施しており、学生のモチベーションは高い。さらに正規授業とは別に、英語に関する様々なイブニングセミナーを開催し、また自己学習のシステムを導入するなど、学内の英語教育を実践的なものにする機会を多数設けており、大学院の入試の際には、TOEICの受験を義務づけている。この結果、TOEICの成績も上昇し、



舞と邦楽

また海外からの来賓が道を尋ねた際にも的確に対応するなど、目に見えた成果が実感できるようになってきたのは、大変喜ばしい。

大学院レベルでは、海外の国際集会への派遣支援を基軸として専門分野での技術研修の機会を多く設けている。同時に海外インターンシップ制度により、大学院生を企業や協定大学に派遣している。現在は、『ベトナムパナソニック』、『ベトナム味の素』などへの派遣を行ってきたが、まだまだ人数が少ない。もし同窓生の方で、受け入れ企業の情報があれば、お知らせいただければありがたい。

交流地域という観点では、広い世界をすべてカバーするのは困難であるが、次のような特徴が感じられる。留学生の相手国については、中国が最多国であり、韓国、タイ、ベトナム、マレーシアなどのアジア諸国が多い。特徴的なのは、タイ、ベトナムからの留学生は、すでに同地で教職についている若手研究者が博士の学位を取得する目的で留学してくる点であろう。一方、マレーシア留学生は、国の方針を反映してか、学部生、特に女性の方が多い。詳しくいうと、ベトナムと本学の交流の歴史は古く、本学で博士号を取得して帰国し、母国でアカデミックポストの要職に就いている卒業生がいることは頼もしい。すでに彼らの弟子が本学に留学するケースもあり、生命物質科学系を中心に開催されてきたKIT-ベトナムセミナーも今年で10周年を迎える。ベトナムにおける協定大学は、ハノイ医科大、ハノイ工科大、ホーチミン理科大、ホーチミン工科大といった理工系の代表校を始め、近年はさらにカントやダラットへと地域を拡大している。ベトナムからの留学生に関する教育成果は、先輩教授のご尽力の賜により、その成果が次第に目に見えるようになって

てきた。両者の関係は本学の現役教員にうまく引き継がれ、世代交代がよく機能していることも成功の秘訣であろう。実際、高分子機能工学部門の宮田教授(ベトナム出身)はベトナムの父、応用生物学部門の亀井准教授はベトナムの母と慕われている。

タイについても理・工・農の広い分野における交流が盛んであり、博士号の取得を目指している若手研究者を受け入れ、教育研究を実施している。協定校も、チュラロンコン大、キングモンクート大、カセサート大、チェンマイ大といったタイを代表する大学と協定を結んでいる。

このように、インドシナ半島との連携は緊密なものがあるが、それ以外の地域に関しては、文部科学省が支援する競争的資金、いわゆるGPの財源を用いて様々な活動を展開している。

たとえば、三条通の京町屋を借りているが、ここを拠点にして、国際交流、異分野交流、異文化交流を行っている。実際には、外国人留学生と日本人学生がチームを組んで京都の伝統工芸の工房に出向き、作品を制作し、ソウルヤリーズ大学で展覧会を開催したり、パリのベルサイユ建築大学とは、京都とパリで大学院生のワークショップを毎年行っている。さらには、マサチューセッツ工科大学(MIT)でおこなわれたiGEMの大会(遺伝子組み換えコンテスト)において、大腸菌を用いた蛍光ペンの試作で、金賞やプレゼンテーション賞などを受賞している。このように国際交流の事業は、本学の学生に刺激を与え、思わぬ教育効果を発揮している。

多くの学生が自信をもって社会に出るには、国際的な経験が有効であり、松ヶ崎の研究室での日々の研鑽の結果が、遠くの外国で評価されることを実感できる機会をできるだけ多く提供して行きたい。



学長主催の留学生パーティーの様子



## 平成 21 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム採択 「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 教授 澤田 美恵子



さて、京都工芸繊維大学という大学は、例えば京都以外の人から見れば、どんな印象があるのだろうか。グーグルの世界マップのように少しずつレンズを引き範囲を広げて考えてみよう。関西、日本、東アジア、アジア、北半球、世界全体と、虫の目ではなく、鳥の目でみれば、京都工芸繊維大学という大学を知る人の数は減っていく。京都工芸繊維大学についての情報を持たない人が増えれば増えるほど、名前自体が、どんな印象かに関わってくる。とは言っても、それは日本語が分かる人が対象であれば、京都工芸繊維大学という名前で理解されるが、日本語が分からない人にとって、京都工芸繊維大学を理解する手立ては、京都工芸繊維大学の英語の名前、Kyoto Institute of Technology である。初めて京都工芸繊維大学という名前を知った人が、日本語を理解できるか否かによって京都工芸繊維大学の印象は大きく異なることになる。

こんな話を最初にするのは、私が留学生に日本語を教えることを生業としているからだ。日本語を初めて習う留学生に最初に教える言葉の一つに、京都工芸繊維大学という名前がある。漢字が難しく、えらく長い名前とその漢字の意味に、漢字圏以外の初めて日本語を習う留学生は必ず驚く。

京都工芸繊維大学という大学に、英語名として Kyoto Institute of Technology という名前が、なぜつけられたのかという本当の理由を知らないで、それにケチをつけているわけではないのだが、これは事実である。英語名の背景には、日本において伝統工芸も繊維業界も従事する人が最盛期からみれば随分少なくなってしまったという理由も関係しているかもしれない。

平成 18 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(通称現代 GP) に採択された「創造性豊かな国際的工科系専門技術者の育成－伝統からイノベーションへ ローカルからグローバルへ」という教育プロジェクトの取組担当として、京都工芸繊維大学という名前を背負って国内外で話すことが多くなってから、外からの視線や期待に曝されて、より強く名前について考えることになった。

京都工芸繊維大学を、それほど知らない人にとって、京都という場所にあることは大きな魅力となる。そして次の情報として工芸、繊維を専門とする大学なのかという錯覚を起こさせる。現代 GP で採択された私たちの教育プロジェクトは京都の伝統工芸を学生たちが知り、学生たちがその活性化を考えていくというものであった。煌びやかで雅なその美しい京都の伝統工芸は学生たちを魅了し、その教育を情報発信した出版物により、私たちのプロジェクトは京都工芸繊維大学という名前から受ける印象そのものに一致したのかもしれない。しかし、当時実際には京都工芸繊維大学の基盤的な授業のなかに伝統工芸そのものを学ぶような授業はほとんどなかった。現代 GP によって、3 年生対象の「京の伝統工芸－技と美」、4 年生対象の「京の伝統工芸－知と美」、大学院生対象の「京の伝統工芸－知美技」という伝統工芸を学び活性化することを主旨とする授業が揃った。3 年間の現代 GP の補助期間が終わった時、学生たちは授業の継続を求めた。平成 21 年度学生たちの声を受けて、より多くの学生とより多くの文化遺産を対象として学ぶことができる本稿のタイトルである教育プロジェクトを申請し、採択された。

この教育プロジェクトは、京都のユネスコ世界文化遺産及び 2003 年にユネスコが採択した「無形文化遺産の保護に関する条約」で明示された多くの無形文化遺産を対象とし、京都市との連携を基盤に、京都工芸繊維大学が代表校として京都市立芸術大学、京都産業大学、京都ノートルダム女子大学と連携し、国公私立大学がその枠組みを超えて教育研究資源を集結する。そして京都の有形・無形文化遺産の保存・活性化を支える人材を育成し、その活動を通じて地域に貢献するとともに、将来目標として、国際協力の側面から本取組により開発した教育プログラムを京都から世界に発信するものである。この教育プロジェクトでは、タイトルに「文化芸術都市京都」と言い放ち、「京都」の雅で煌び

やかなイメージを大きく打ち出した。

昨年、本教育プロジェクトの一環で、エッフェル塔近くのパリ日本文化会館で行ったシンポジウム「京都 二つの顔」では、ほとんど広報もしていなかったにも関わらず、開場前から人が並び、あっという間に満席になった。「クールジャパン」と呼ばれるように、今日本の文化は世界から注目されている。言葉を専門とする人間から言わせて頂ければ、内容が素晴らしいものであればあるほど、名前はとても大切である。

この教育プロジェクトに採択されて、京都の文化遺産を学ぶ授業は前述した3つの授業に加えて、新たに1年生対象の「京の文化財学基礎演習」、2年生対象の「京の文化行政」「文化財学」という授業がつけられた。これで、どの専門の学生も全学共通科目として1年生から大学院生まで学ぶことができるようになった。

学生が私たちの教育プロジェクトの授業を履修する理由として、京都工芸繊維大学という大学に入学した時から、京都という場所を知りたかった、伝統的なものに触れたかったということがあげられている。本学の教職員が思っている以上に、京都工芸繊維大学という名前の印象は、学生にとってインパクトがあるのだ。

それでは、走馬灯を見るように、これまで行ってきた主な事業について簡単に紹介したい。

#### ●国内 EXPO 「Craft Concierge 京都 EXPO 2009『Hello! 伝統工芸～伝統との4つの出逢い～』」

2009年9月に京都工芸繊維大学の美術工芸資料館にて、京都の伝統工芸をより身近に感じて頂くための展示会を開催。会期中は、大学生の他に小学生や地域の方々など1週間で約800名の方が足を運んでくださり、充実した EXPO となった。

#### ●海外 EXPO 「KYOTO DESIGN now&then」

2010年3月にイギリスのリーズ大学にて展示会・シンポジウムを開催。展示会では、約100年前の本学生徒作品と、現在本学にてデザインを専攻する学生が、金彩・鍍金具・京瓦などの伝統技術を用いた作品を展示した。

#### ●第2回フォーラム「ことばの力 ものの力」

2010年4月28日(水)、第2回フォーラム「ことばの力 ものの力」を開催。

著名な詩人である谷川俊太郎氏、国際賞受賞



などの功績のある陶芸家、鯉江良二氏の両氏により、「ことばの力 ものの力」について語る対談が行われた。参加者は総勢1,000名を超え立ち見が出るほどの盛況ぶりだった。

#### ●海外 EXPO 「SEOUL ⇄ KYOTO MEETS TRADITIONAL EXPO 2010」

2010年9月1日(水)～6日(月)に韓国(水原大学連携)のソウルアートセンターコンピョンギャラリーで「SEOUL⇄KYOTO MEETS TRADITIONAL EXPO 2010」を開催。学生たちの作品展示とディスカッションを行った。企画意図も大きな反響を呼び、作品に対する評価も非常に高く、日韓文化交流も深めることができた。



#### ●国内 EXPO 「Craft Concierge 京都 EXPO 2010 『伝統をまとう』」

2010年9月25日(土)～30日(木)、「Craft Concierge 京都 EXPO 2010 『伝統をまとう』」を、京町家連携キャンパス「ににぎ」で開催。伝統工芸の技術を使った「伝統ガールズコレクション」、日韓の学生が互いの国の魅力を表現する「アニョハセよろしく展」や、「京都 Cool Biz Shirts Collection」では、浴衣地で作ったおしゃれなシャツの提案をした。また、町家周辺を“水”



と“染め”をテーマに歩いて見て知るツアー「くるる」を開催、期間中には、連携大学学生以外にも、韓国ソウルの水原大学の学生も訪れ、休日には、三条通界隈の散策を楽しむ観光客も多数訪れた。

●国際シンポジウム「Colloque京都 二つの顔」

2010年11月2日(火)、フランスにあるパリ日本文化会館において、「Colloque 京都 二つの顔」と題した国際シンポジウムを開催。本教育プロジェクトを紹介したのち、エッセイストである石橋郁子氏、フランス国立科学研究センター(CNRS)所長である Philippe Bonnin 氏、本学西田雅嗣准教授から講演が行われた。来場者との質疑応答では、時間一杯まで活発なディスカッションが続き、会場は温かなコミュニケーションが交わされた。

何と言っても圧巻は次の事件である。

★イリーナ・ゲオルギエバ・ボコバ 国連教育科学文化機関(ユネスコ)事務局長のご訪問及び学生との交流会

2010年11月27日(土)、外務省賓客として京都市を訪問中のイリーナ・ゲオルギエバ・ボコバ国連教育科学文化機関(ユネスコ)事務局長が、京町家連携キャンパス「ににぎ」で、学生との



交流会に参加された。交流会は、ペルーからの留学生がたてた抹茶と和菓子によるおもてなしで始まり、本教育プロジェクトの説明をした後、「有形・無形の文化財の保護に係るユネスコ活動」等をテーマにボコバ事務局長による講演が行われ「有形・無形の文化財を保存・活性化することは文化の多様性を守ることであり、このグローバル社会にとって重要な意味をもつことである。本教育プロジェクトはユネスコが目指す活動そのものであり頑張ってもらいたい」との応援メッセージを頂いた。町家を埋め尽くす学生とのディスカッションも活発で、会場となった町家キャンパスはしばし熱気に包まれた。

その後、ボコバ氏から励ましのお手紙を頂き、ユネスコからは正式に本教育プロジェクトをサポートするという旨の証明書を頂いた。昨年が一番嬉しい出来事であった。虫の目で見ても、鳥の目で見ても、本教育プロジェクトへの評価は高いことが証明された。来年度は補助金の最終年度である。再来年度からは補助金はない。申請すべき場所すらない政府の財政状況である。

大学は生き残るために、今、個性と特徴が求められている。私たちの教育プロジェクトが成功しているのは、本学の同窓生が社会で礎を築いて下さったおかげだと、いつも感謝している。京都工芸繊維大学という名前を大切に、歴史をつないでいきたいと心から願う。和の心も匠の技も、海外のほうが、認められているような気がする。はて、日本国内ではどうだろう、和の心も匠の技も一度途切れてしまうと取りもどすことができないものだ。この場をかりて、その大切さを学生が学ぶことができる本教育プロジェクトの継続にご尽力賜りたいとお願い申し上げます。5年に渡るプロジェクトの成果がただ花とならないことを祈りつつ。

もし、本教育プロジェクトの継続にご協力して下さる方がいらっしゃいましたら、以下にご一報頂きますよう、どうぞよろしくお願い致します。

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1  
 京都工芸繊維大学 澤田美恵子研究室  
 Tel&Fax: 075-724-7739(月～金 10時半から16時半)  
 e-mail: samieko@kit.ac.jp

## 美術工芸資料館の活動

美術工芸資料館長 並木 誠 士

2010年度の美術工芸資料館の活動について、ご報告します。

2009年度より、連携GPの一部門として文化遺産教育研究センターが設置され、その業務の一環として、美術工芸資料館を会場にした展覧会の企画立案をしています。そのため、美術工芸資料館では、資料館独自の企画とセンター企画の二本立てで展覧会を開催しています。スタッフはかなり忙しくなっていますが、来館された方には「お得」になっています。

さて、2010年度は、二階展示室では「世相を映すーポスターに見る近代ヨーロッパー」展、一階展示室ではセンター企画「浅井忠と京都1900年～1907年」展の併設で幕を開けました。「ポスター展」では、ヨーロッパのポスターを四つのテーマにわけて展示をしました。「浅井忠と京都」では、これまであまり注目されていなかった京都高等工芸学校赴任後の浅井の図案活動と交流関係に焦点をあてて、個人所蔵の作品借用も含めて展示しました。初公開の資料もあり、多くの方々に楽しんでいただきました。

続いて、二階では「荒川修作+マドリン・ギンズ：天命反転プロジェクト」展(写真1、2)



写真1



写真2

を開催しました。国立国際美術館での荒川修作展と並行企画という新しい試みで、おもに荒川の建築的側面に光を当てたものですが、会期中に荒川修作氏が亡くなったこともあり、新聞等で注目を集めました。会期中にはシンポジウムも開催しました。

荒川展に続いて二階では「近代日本のグラフィックデザイナー-大正・昭和のポスターを中心に-」展(写真3)を開催しました。前年度に

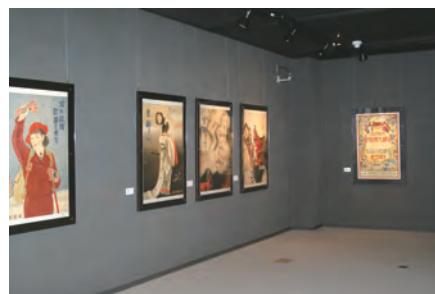


写真3

購入した資料も含めて日本のポスターを、やはり四つのテーマに分けて展示しました。美術工芸資料館所蔵のポスターというとフランスのものがよく知られていますが、近年、日本のポスターも充実してきました。

一階では、センター企画第二弾として「ここにもあった匠の技 -機械捺染-」展(写真4、5)を8月から開催しました。平成13年に本学に寄贈された機械捺染の図案家寺田哲朗氏の図案資料を中心に、京美彫刻、太田重染工などの京都の染織業者から機械や資料を借用して展覧会を開催しました。近代京都の染織産業にかか



写真4



写真5

わられてきた方々が誘い合わせて来館され、展覧会終了後に、あらたに資料の寄贈を受けることになりました。

一階では続いて、センター企画第三弾として「浅井忠が選んだフランス陶磁-明治35年購入の図案科標本より-」展(写真6)を開催しました。京都高等工芸学校開校にあたって浅井忠がパリで選んだ当時最新のデザインや技法の陶磁器を展示しました。



写真6

なお、2010年秋には、増加した所蔵品の収納を計るために、三階取蔵庫の大規模な整理をおこないました。そのために、10月から2011年1月まで二階展示室を閉めて資料を一旦二階に移動させました。今回の整理で多少のスペースは生まれましたが、まだまだ収納場所は足りないというのが現状です。また、この期間に二階展示室の壁紙の張り替え作業もしました。2011年2月7日からは、新しくなった二階展示室で「もうひとつの京都-モダニズム建築から見えてくるもの-」展が始まりました(写真7)。歴史的な寺社だけではない、近代建築というもうひとつの京都の魅力を写真と模型で示しました。5月8日まで開催しています。

また、毎年恒例の博物館実習生による企画展示は、今年度は2011年1月から2月にかけて「手の中の世相-マッチラベルコレクション



写真7



写真8



写真9

-」展(写真8、9)です。館蔵マッチラベルのうち2300点余りを展示しました。新聞、テレビなどでも取り上げられ、これを機会にマッチラベルの寄贈の申し出が続きました。2月15日には、松ヶ崎小学校美術教室も開催しました。

センター企画第四弾は、2011年3月から開催する「ラジオの時代-谷川俊太郎コレクションを中心に-」展です。これは、2010年度に詩人谷川俊太郎氏から寄贈を受けた190台のラジオと美術工芸資料館が収蔵するポスターなどをあわせて展示する企画です。3月29日には谷川俊太郎氏をセンターホールにお招きして対談もおこないます。

2010年度は、美術工芸資料館の収蔵資料がますます充実し、それにともない、活動もまた活発になった一年であったと言えます。今後とも同窓生の皆様方には美術工芸資料館の活動に対しまして、一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

# グリーンイノベーションと新専攻

バイオベースマテリアル学部門 部門長 浦川 宏

グリーンイノベーションは、これから人類が向かわねばならない、低炭素、循環型、そして自然共生社会への重要な戦略です。太陽電池や燃料電池などエネルギーに関する現実的戦略の一端が垣間見えるようになってきました。一方、多量に消費される有機材料、特に高分子材料に関しては、バイオベースマテリアル(BBM)がグリーンイノベーションの主演となります。そこで、本学は、BBMの国際的教育研究拠点とすべく、2010年度に大学院工芸科学研究科博士前期課程(修士課程)にバイオベースマテリアル学専攻(定員22名)を設置しました。グリーンイノベーションには、産業革命時に相当するライフスタイルやビジネススタイルの大きな転換が伴うと考えられます。この地球規模の変革の中で、新しい素材BBMに関する革新的な科学技術開発と、その実利用並びに普及を国際人として牽引できる人材の育成は不可欠かつ急務であり、新専攻設置の必要性はここにあります。

グリーンイノベーションの目的は、新しい科学技術や産業を創出し、地球における環境・資源・エネルギーの諸問題を解決し、経済と環境が両立する健全な社会を持続的に成長させることにあります。具体的には、地球温暖化防止、すなわち、温室効果ガスの大気中濃度の問題となります。これまでの社会では石油・石炭由来の素材及びエネルギーの、価格を含んだ利便性のため、その大量消費が継続して行われています。これが温室効果ガスである二酸化炭素の大気中への放出に繋がり、二酸化炭素濃度増加、地球温暖化、種々の環境問題、さらには将来の生活不安へと繋がっていきます。動植物が生産した物質を、新しい技術やプロセスで、石炭・石油由来の素材・材料の利便性を損なうことなく利用しようとするのがBBMの基本的な考え方です。こうすることで、植物が光合成により大気中に取り込む二酸化炭素量とBBM由来の製品が利用後に処分(生分解、焼却など)されることで大気中に排出される二酸化炭素量のバランスがとれ、有機材料を利用することによる大気中の二酸化炭素濃度の上昇が抑えられ、温暖化に歯止めをかけることができます。

上に述べた研究の推進と、必要な人材育成の

ために、本専攻には、次の6つの研究分野を設置しています。また、2012年度には博士後期課程の設置を予定しています。

- (1) 生物資源システム工学(小原仁実教授、麻生祐司准教授)

再生可能資源であるバイオマスを微生物工学的プロセスで変換し、次のBBM合成の原材料を高効率で生産する研究を担当します。

- (2) バイオベースマテリアル化学(木村良晴教授、安孫子淳准教授、青木隆史准教授、田中知成助教)

(1)の研究分野で得られた原材料を出発物質として、化学的手法により実用可能なBBMとするため、重合物の分子構造設計および重合方法の研究を行います。

- (3) バイオナノファイバー(山根秀樹教授)

BBM由来の高分子材料を繊維やフィルムへの加工を実施し、その加工性と物性を評価します。

- (4) ナノ材料物性(櫻井伸一教授、佐々木園准教授)

BBMの物性や機能は、繊維やフィルムの内部微細構造と強い連関があります。本研究分野は、最新の構造解析機器と手法を駆使し、加工されたものの精密構造解析の研究を担当します。

- (5) バイオ機能材料(浦川宏教授、安永秀計准教授、綿岡勲助教)

BBMで作られた製品を後加工により高機能化・高性能化する方法の研究を担当します。また、これまでに材料として見放された天然物の物性改善と有効利用について研究します。

- (6) 応用バイオテクノロジー(協力講座)(功刀滋教授、半場祐子准教授)

タンパク質の構造と機能の相関に関する研究を行い、構造変換による機能改変を実現し、BBMの生産性の向上を目指します。また、植物の生産性を維持・向上させる目的のため、環境変化に成長が著しく依存しない環境耐性植物の創生に関する研究を行います。

# 昆虫バイオメディカル教育研究センター設立について

センター長 森 肇

京都工芸繊維大学に平成22年1月より昆虫バイオメディカル教育研究センターが新設されました。このセンターは教育研究プロジェクトセンターとして5年間余り活動を続けてきた昆虫バイオメディカル研究センターをもとに、新たな教育研究センターとして恒久化されたものです。センター専任教員(井上喜博准教授)と兼任教員7名(さらにプロジェクトに応じて特任教員を配置)が、本学の伝統である昆虫科学(カイコ、ショウジョウバエ)をより発展させ、これらが保有する固有の機能を解明し、それをメディカル分野に応用することを目指した教育研究をおこなっています。

本センターでは、以下のような教育面の取り組みをしています。我が国の大学における生命科学の教育は、細分化された研究分野の専門家の養成に重点がおかれていますが、今日の産業界は諸分野を統合的に理解し、研究開発事業を構想できる人材を求めています。これに答えるため、本センターでは大学院応用生物学専攻、生命物質科学専攻と協力して、昆虫科学の専門家であると同時に、医薬品研究開発の流れを俯瞰し、これを構築できるプロデューサー型人材の育成をめざしています。この取り組みは文部科学省概算要求(教育改革)「昆虫バイオメディカル教育プログラム推進事業」によるものです。また、本学は近隣の京都府立大学及び京都府立医科大学と包括協定を締結し、3大学間の教育研究の連携を進めています。これに従い、本センターでは本学伝統の昆虫科学を、病気の発症機構の解明から予防・医薬品開発までをカバーできる新しいヘルスサイエンスに発展させる教育プログラムを開発実施しています。

さらに研究面では以下の2本の柱を中心にした取り組みをおこなっています。

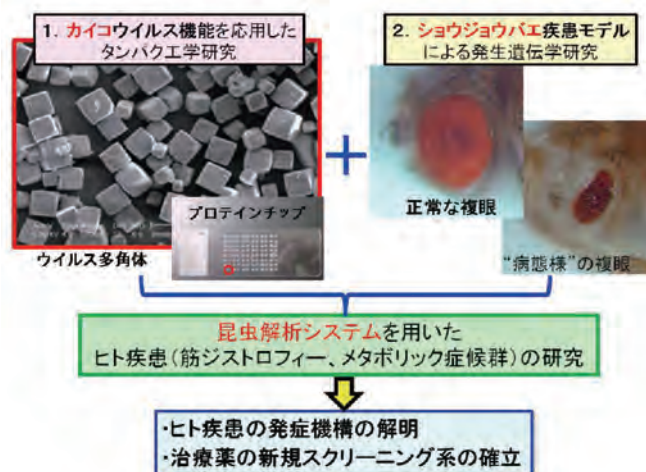
## 1) 昆虫ウイルスの特徴を生かした再生医療に関する研究

カイコなどに感染するウイルスは、「多角体」と呼ばれるタンパク質の結晶を作っています。この多角体はウイルスを外的環境から守る性質があることから、タンパク質を保護する入れ物として利用する方法を開発しました。現在、この多角体に幹細胞などの増殖や分化を誘導するタンパク質を取り込ませ、心筋、軟骨、角膜などの細胞の増殖や分化誘導に関する研究を行っています。

## 2) ショウジョウバエをモデルに用いた、ヒト疾患の発症機構の解明から、創薬、健康科学に関する研究

本学には、本センターの教員を中心としたヒト疾患モデルショウジョウバエに関する教育研究の実績があります。また、学内において世界でも最大規模の系統が維持されているなど、ショウジョウバエを用いた教育研究に適した環境が整備されています。ショウジョウバエは哺乳類と比較して寿命が短いために、晩発性の疾患や加齢に伴う進行性の疾患の解析に威力を発揮します。現在、筋ジストロフィー、癌、神経変性症、糖尿病などのモデル系統を開発、作製して、その発症機構の研究を進めています。上記の昆虫ウイルス多角体を用いた研究とショウジョウバエ疾患モデルを統合したプロジェクト「昆虫システムを活用したヒト疾患の発症機構の解析と新たな治療薬スクリーニング」(代表森肇教授)が科学研究費補助金基盤研究Aに採択され、昆虫を用いて疾患に関連した遺伝子の検索や治療薬となる化学物質を探す研究を本格的に開始しました。また、ショウジョウバエの世代時間が極端に短いという特徴を生かして、抗老化物質の探索あるいは疾患の原因とされる酸化ストレスを発する化学物質の検出法の開発もおこなっています。これを用いて3大学連携による医学健康科学研究も進めています。

以上のような教育研究をおこなっていくことで、本学が目指す「ヒューマン・オリエンテッドテクノロジーの確立」に貢献してゆきたいと考えています。OBの皆様方におかれては、本学に新設された昆虫バイオメディカル教育研究センターへのご支援をお願い申し上げます。



## 京都工芸繊維大学名誉博士号を贈呈

本学では、「本学における教育研究の進展に寄与した功績が特に顕著であると認められる方」、または、「学術文化の進展に寄与した功績が顕著であり、本学において顕彰することが適当であると認められる方」に京都工芸繊維大学名誉博士の称号を授与することが、平成21年度に制度化されました。

そして、その第1号の京都工芸繊維大学名誉博士を千玄室様に贈呈させていただきました。以下は、その贈呈式の式辞を一部割愛のうえ掲載いたしました。

### 千玄室氏(第1号名誉博士記)贈呈式

今日、理事、評議員、教職員とともに千玄室様に京都工芸繊維大学名誉博士の称号を授与できましたことは、大学にとって大きな喜びであります。

中略

今日は千玄室様には、平成18年以降3年間にわたり、本学の教育に大きなご尽力をいただきました。

人間教養科目「京の伝統工芸-技と美」においては、本学の学生が「裏千家今日庵」において見学と茶道研修を体験させていただき、茶道のこころを学ばせていただきました。

また、現代GPプログラム「創造性豊かな国際的工科大専門技術者の育成」においては、2度にわたり、フォーラムの基調講演をしていただきました。

さらに、「千玄室先生と京都工芸繊維大学学生の対話“一盃からピースフルネスを”」の出



版においては、監修をしていただき懇切なご指導をいただきました。

これらの様々のご指導の中で、本学の学生は深い感動と大きな感銘を受けました。

このことは、大学としては、誠に有り難く心から感謝しているところであります。

今回の京都工芸繊維大学名誉博士の称号授与は、大学としての感謝の意も込めさせていただいております。3年間にわたるご指導、誠に有難うございました。

本日は名誉博士の称号、誠におめでとうございます。

平成21年4月21日

京都工芸繊維大学

学長 江島義道



### 稲盛和夫氏に名誉博士記を贈呈

平成 22 年 5 月 6 日(木)、京セラ株式会社名誉会長の稲盛和夫氏に対し、本学における教育研究の進展及び、学術文化の発展に寄与した功績が特に顕著であると認め、名誉博士記を贈呈しました。

同称号の授与は、本学名誉博士称号授与規則に基づくもので、贈呈式では、役員並びに教育研究評議会委員等の同席の下、江島義道学長より名誉博士記が贈呈され、本学第 2 号名誉博士となった稲盛氏からは、「アカデミックな学校との付き合いは、京都工芸繊維大学が最初であり、また、先生方とは、セラミックの技術面だけでなく人間としてのお付き合いをしていただけました」との挨拶がありました。

同氏には、平成 16 年 4 月から 6 年間にわたって、経営協議会委員として本学の経営に関する指導助言をいただいた他、平成 18 年には「ミラノサローネ展」に本学学生の作品を出展するに当たり多大な支援をいただくなど、本学における教育研究活動に寄与いただきました。



稲盛名誉博士を囲んでの記念撮影



名誉博士記

### 五代伊藤赤水氏に卒業生初の名誉博士記を贈呈

平成 22 年 5 月 12 日(水)、陶芸家で重要無形文化財保持者(人間国宝)の五代伊藤赤水(本名：伊藤窯一)氏に対し、学術文化の発展に寄与し

た功績が特に顕著であると認め、名誉博士記を贈呈しました。

本学の第 3 号名誉博士となる伊藤氏は、本学工芸学部窯業工芸学科の卒業生であり、昭和 51 年に五代赤水を襲名、江戸時代から続く「無名異焼」を通じて日本の陶芸における学術分野の発展に寄与し、平成 15 年に重要無形文化財保持者に認定、平成 17 年には紫綬褒章を受章するなど、その学術的、文化的功績は大きく、本学において顕彰することが適当であると認められました。

同称号の授与は、本学名誉博士称号授与規則に基づくもので、贈呈式では恩師の奥田進名誉教授等の同席の下、江島義道学長より名誉博士記が贈呈されました。

また、同氏の作品「無名異練上花紋皿」が寄贈されたことに対する、感謝状の贈呈も行われました。



名誉博士記



記念撮影(左から奥田名誉教授、江島学長、伊藤名誉博士、同夫人)



無名異練上花紋皿

## 松ヶ崎キャンパスに国立大学初の建物が竣工

京都工芸繊維大学  
理事・事務局長 林 一 義

本年1月末に、松ヶ崎キャンパス東部構内の本部棟西側に、京都ノートルダム女子大学(以下「女子大」)の講義棟「ノートルダム館」が竣工しました。私立大学の建物が国立大学の敷地に建設された前例はありませんので、その経緯と施設の概要についてご報告します。

このノートルダム館において、4月から女子大の共通教育科目(教養科目等)の約半分と1年次生配当の専門科目の授業が行われるため、毎日約300名の女子学生が本学キャンパスで学ぶこととなります。

この建物は、平成26年3月までの3年間、女子大が授業等に使用した後、本学に無償譲渡されることになっています。このため、本学の建物としてもふさわしいものである必要があり、本学名誉教授の船越暉由先生の設計により、本部棟に隣接し、中央東門を入れて直ぐ左手、60周年記念館の向かい側に建てられました。現在の本部棟と同じ3階建てのため、本部棟と間違われる方もいるかもしれません。

ノートルダム館の建物概要ですが、RC構造3階建(延床面積1,530所)で、1階から3階にそれぞれ大教室(156席)があり、2階3階には小教室(70席・59席)が2室ずつあり、計7室で708名収容できます。また各階には洗面・パウダーコーナーを併設した快適なトイレが設置されています。

これらの教室は、女子大が授業として使用していない時間帯は、本学が利用できるようになっており、本学の夜間主コースの授業や、女子大と連携して、学生の就職支援のための公務員試験対策講座等の開設も予定しています。また、本学を会場として開催する学会の分科会等の会場としても使用したいとの要望が既にありますので、女子大と種々協議を行っているところです。

次に、ノートルダム館建設の経緯等について説明します。平成21年4月に、女子大の事務局幹部から、『耐震補強のため、女子大の多くの校舎の建て替えを予定していることから、本学の空き教室を3年程度貸してほしい』旨依頼がありました。本学も教室に余裕があるわけはありませんでしたが、前年にプレハブ校舎が建設され、また60周年記念館の新設計画がありましたので、学長・役員等で協議の上、できる限りの協力をするを約束し、同年6月17

日に両大学間において「連携・協力に関する包括協定」を締結しました。また翌7月には、両大学の施設・グラウンドを相互に無償で使用できるよう覚書を締結しました。その後、女子大において、敷地内に計画されていた仮校舎について、①敷地が手狭なことによる近隣住民への配慮、②標準修業年限4年のうち3年を仮校舎で授業を受けることになる学生への配慮などから建設計画が変更になり、本学敷地内に建設することになりました。本学においても、本部(事務局)棟には総務企画課と財務課の2課のみで、他の多くの課の事務室が学内に分散し業務上極めて非効率であったことから、3年後に本学に無償譲渡されるのであれば、①事務局の各課を集約できること、②事務室を教育研究スペースに転用できること等から多くのメリットがあると判断し、建設を許可したものです。

ノートルダム館の建設に係る費用(約3億3千万円)は、仮校舎を建設予定であった学校法人ノートルダム女学院(以下「女学院」)が負担することで双方合意し、国立大学初の建物が竣工することとなったものであり、文部科学省の担当官からも高く評価されています。

このノートルダム館の竣工式典は、女学院の主催により文部科学省幹部等を来賓に迎え、両大学の教職員の参加を得て、3月14日に執り行われたところです。

この1年間に本学では、同窓会パビリオン、KIT HOUSE(学生食堂等)、60周年記念館、ノートルダム館の4つもの新営建物が建設されましたので、同窓会会員の皆様には、是非ともこれらの施設をご見学頂きたく存じます。

久しぶりに母校で学科・課程・学年別の同窓会などを企画されては如何でしょう。



東部構内に完成した京都ノートルダム女子大学の「ノートルダム館」  
右の建物は、事務局本部棟

## 創立記念日事業を実施しました

平成 22 年 5 月 31 日(月)、本学の創立記念日を迎えたことを祝した記念式典等を開催しました。

平成 22 年は、本学同窓生や、平成 21 年度に行った創立 60 周年記念事業をご支援頂いた方々をお招きして、記念式典や施設見学ツアーなどの事業を行いました。

記念式典では、学長挨拶に続き、60 周年記念事業部会副会長であった古川敏一氏(京都工芸繊維大学同窓会顧問)、本学元学長・名誉教授の巽友正氏より、今後の本学の発展への期待と激励を込めたご挨拶を頂きました。引き続き、60 周年記念事業についてスライドショーを交えた報告を行った後、ご寄附を頂いた方々に対し、感謝の意を表して記念プレートを贈呈しました。

また、60 周年を記念して新設した建造物を中心に施設見学ツアーを行い、参加者の方々には、本学の変遷に思いを寄せながら、キャンパス散策をお楽しみ頂きました。

美術工芸資料館では、企画展「荒川修作+マドリン・ギンズ」展を無料開館としたほか、60 周年を記念して京都市営地下鉄に設置したサインボード等の原画となる「京都工芸繊維大学八景」(中野仁人准教授デザイン)や、新たに収集した収蔵品の特別公開を行いました。

そのほか、教員 OB・OG 会、大学の貴重資料展および同窓会の主催する懇親会などが開催され、晴天に恵まれた本学創立 60 周年の記念日は、和やかな一日となりました。



晴天に恵まれた創立記念日  
(手前の白い建物は式典会場となった60周年記念館)



学長挨拶



(左) 古川敏一氏(京都工芸繊維大学同窓会顧問) (中) 巽友正氏(本学元学長・名誉教授)  
(右) 記念プレートの贈呈(左は、衣笠同窓会を代表して会長の松原藤好氏)

施設見学ツアー(手前は同窓会パビリオン)



美術工芸資料館 特別展示



大学の貴重資料展



同窓会主催懇親会の様子

## 「60周年記念館」を新設

本学は、大学創立60周年を記念した研究交流施設「60周年記念館」を新設し、平成22年3月30日に竣工記念式典を開催しました。

「60周年記念館」の建設は、大学創立60周年記念事業の目玉の一つであり、本学建築造形学部門木村博昭教授により設計されました。伝統と新しさの融合をイメージしたデザインの建物であり、1階にはギャラリーとして使用することができるスペースと190人規模の講義室、2階には大小2種類のセミナー室を設けています。学外共同研究者の発表会や学会など様々な規模のイベントの開催が可能です。

同記念館は本学のシンボルとして位置づけられ、今後、研究交流や高校見学会など社会的活動の場として様々な活用が期待されています。



テープカット(中央：江島学長)



「60周年記念館」外観



1階講義室



2階セミナー室

## 「KIT HOUSE」をオープン

本学は、大学創立60周年記念事業によるキャンパス整備の一環として、学生食堂を建替え、「KIT HOUSE」という施設を新設し、3月30日に竣工記念式典を、4月5日にオープニングレセプションをそれぞれ開催しました。

「KIT HOUSE」は、従来の学生食堂が老朽化してきたことや、学生の増加に伴い食事スペースが手狭となったことなどから、学生・教職員の厚生及び、生活上のサービス向上に寄与する施設として整備したもので、本学岸和郎名誉教授により設計されました。キャンパスの景観形成とアメニティの向上を図り、食事スペースを従来よりも増加させ、2階にはミニコープと購買部・ブックセンターが移転して入りました。

オープン後は多くの利用者で賑わい、「以前よりもさらに快適に利用できるようになった」などの声が聞かれました。



テープカット(中央：江島学長)



KIT HOUSE 外観



1階食堂の様子



2階ミニコープの様子

# 教育研究推進支援機構について

教育研究推進支援機構長 森 肇

私は平成22年4月より教育研究推進支援機構長を務めております。この組織は学内の教育研究センターを取りまとめるためのもので、現在、11の教育研究センターがあります(表参照)。その中で昆虫バイオメディカル教育研究センターと伝統みらい教育研究センターはいずれも平成22年1月以降に設置された非常に若い教育研究センターです。それぞれのセンターの役割を簡単に表にまとめましたが、詳細に関しましては大学のホームページの中の教育・研究のページ([http://www.kit.ac.jp/03/03\\_010000.html](http://www.kit.ac.jp/03/03_010000.html))をご参照ください。

今ある教育研究センターは恐らく卒業生の方々が在籍されていた時代とはかなり内容(教育と研究)が異なっているかもしれませんが、それぞれの教育研究センターのホームページをご覧いただくとその変遷をご理解いただけるのではないかと思います。

本学は国立大学法人となり、中期目標・中期計画を定め、それに沿って大学運営や大学改革を進めておりますが、その中で本学の重点領域研究プロジェクトを定めております。その中から、さらに本学の長期ビジョンに掲げる「ヒューマン・オリエンテッド・テクノロジーの確立」に資するとともに、本学が学内外からの求めに応じて重点的に推進すべき教育研究プロジェクトを推進するために教育研究プロジェクトセンターを、時限を定めて設置するとなっております。そして、さらにその教育研究プロジェクトセンターの中から恒久センターとしての教育研究センターが設置されるという方向付けがなされようとしております。上記の昆虫バイオメディカル教育研究センター、伝統みらい教育研究センターはまさにそのプロセスを経て設置されたものであります。

このように教育研究センターは本学の独自色を色濃く反映したものであり、そのまとめ役でもある教育研究推進支援機構は工芸科学研究科と共に車の両輪として本学のますますの発展に貢献すべく鋭意努力している所であります。

美術工芸資料館	本学前身の京都高等工芸学校創設時(明治35年)から教材として収集してきた資料を所蔵。所蔵資料を用いた教育研究及び展示行っている。
情報科学センター	基幹コンピュータシステムと学内情報ネットワークの管理・運営。情報処理および情報通信の面において教育研究を幅広くサポートしている。情報セキュリティやeラーニング等について独自の研究を行っている。
環境科学センター	大学の教育・研究活動で生じる廃棄物の管理と処理、排水の管理、広報活動など環境保全に関する業務・研究を行っている。
ショウジョウバエ遺伝資源センター	遺伝資源として重要なショウジョウバエの世界最大の系統数を維持する施設。ショウジョウバエの収集・維持・提供を行うとともに、新しい系統の開発研究を行っている。
機器分析センター	各種測定・分析機器等を集中管理し、学内における教育研究の共同利用に供するとともに、計測・分析技術の研究開発等を行っている。
放射性同位元素実験室	非密封放射性同位元素をトレーサーとして利用し、遺伝子工学分野、酵素反応、代謝等を含めた生化学的研究のための共同利用施設である。
繊維科学センター	本学繊維学部が蓄積してきた繊維科学・工学の学術と技術を引き継ぎ発展させるとともに、今世紀における新繊維科学・工学体系の確立を目指している。
生物資源フィールド科学教育研究センター	資源昆虫学分野 ・カイコの無菌人工飼料育システムの継承と発展。 資源植物学分野 ・バイオマス・エネルギー植物のストレス応答、生産生理、栽培技術の開発。 バイオ繊維学分野 ・生物機能を模倣した繊維や生分解性繊維の生産に関する教育研究。
ものづくり教育研究支援センター	各種加工機械・設備を集中管理して共同利用施設として提供。ものづくり教育プログラムの開発、先端的加工機能の拡充、地域企業との情報交換とコミュニティ形成を行っている。
昆虫バイオメディカル教育研究センター	ショウジョウバエやカイコなどの昆虫を利用して医療に貢献するための教育研究を行っている。ヒト疾患原因遺伝子や関連遺伝子の探索による難病の発生メカニズム解明、昆虫ウイルスを用いてカプセル化したタンパク質の応用研究などを行っている。
伝統みらい教育研究センター	今考えられる技術と先人たちが残してきた知恵との複合化を行うことにより、新しいものづくりに応用するための教育研究を推進している。

## 本学の教育研究組織と教育研究プロジェクトセンターについて

本学では、工学のハード面を基礎としつつ、ソフト面を志向した教育研究を行うとともに、段階的に教育研究の広域化・総合化、学際化を進めることを意図して、学部、大学院博士前期課程及び博士後期課程の教育研究組織が密接に接続連携されており、そしてこれらを附属図書館、教育研究センター等の諸施設が多角的にサポートしています。

その中で、教育研究プロジェクトセンターは、

本学の目標を戦略的、重点的に推進するため期限を定めて設置するもので、先端的な教育研究の拠点形成を目指すものとなっています。(詳細は本学HP [http://www.kit.ac.jp/03/03\\_050000.html](http://www.kit.ac.jp/03/03_050000.html) を参照)

各プロジェクトセンターは、いずれも本学に実績が蓄積されている分野で、本学の特色を発揮するにふさわしいものとなっています。

2010.12. 現在

	センターの名称	設置期間	センター長名
1	新世代オフィス研究センター	H18. 6 ~ 23. 5	仲 隆介
2	総合プロセス研究センター	H20. 7 ~ 23. 5	森本一成
3	ナノ材料・デバイス研究プロジェクトセンター	H22. 4 ~ 25. 3	吉本昌広
4	長もちの科学研究センター	H22. 8 ~ 25. 3	西村寛之
5	未利用資源有効活用研究センター	H22.11 ~ 25.10	木村照夫
6	文化遺産教育研究センター	H21.12 ~ 24. 3	並木誠士
7	サステイナブルデザイン教育研究センター	H22. 4 ~ 25. 3	久保雅義
8	遺産資源キュレーター教育研究センター	H22. 4 ~ 24. 3	山本雅敏

## 駐車場・バイク置場の整備

平成 21 年 10 月、松ヶ崎キャンパス内の交通環境を改善するため、グラウンドの西側を使い、自動車約 100 台とバイク約 200 台が収容可能な駐車場と、バイク置場が整備されました。

新駐車場の整備に伴い、構内交通安全対策の見直しが行われました。

これにより東部構内への自動車及びバイクの入構が原則として禁止となり、併せて自転車の駐輪について構内全域における駐輪禁止区域が定められ、建物前の道路は本来の機能を取り戻し、ゆったりと安心して通行ができるようになりました。



構内の状況(駐車場整備前)



構内の状況(駐車場整備後)



整備された駐車場



駐車場出入口ゲート



バイク置場



## 機器分析センター 市民講座・先端技術講座「最先端技術でものを観る」を開催

機器分析センター長 堤 直 人

平成 23 年 3 月 10 日(木)に、機器分析センター市民講座を開催しました。同センターの市民講座・先端技術講座「最先端技術でものを観る」は本年で 4 年目となります。毎年、本学の教員および学外の先生方を講師としてお招きし、本講座を開催してきています。本年は、高分子機能工学部門の西川幸宏助教による「X 線 CT の原理と日常品の三次元画像」の講演と実演ならびに生体分子工学部門の小堀哲生准教授による「機能性核酸プローブの開発と遺伝子診断への応用」の講演を行いました。一般市民、会社の方々ならびに学内の学生と教員の参加者総勢 33 名が、熱心にこれら講師の先生方の講演および実演に聴き入り、活発な質問とそれに対する応答がなごやかに行われました。

西川先生は、X 線の発見から紙と鉛筆による CT(Computerized tomography)の原理体験そして CT 技術の変遷を易しく解説され、さらにご自身が開発された産業用 X 線 CT 装置を会場にもって来て、その場で実演をされました。参加者は実演を興味津々で観ておられました。講演予定時間の 2 時間はあっという間に過ぎ、30 分ほどオーバーするほど講演内容が盛りだくさんでありました。これも西川先生のサービス精神旺盛さによるものでありました。



講演中の西川先生



西川先生のX線CTによる撮影実演に興味津々に観る参加者の方々

小堀先生は、蛍光核酸プローブを用いた遺伝子可視化法の基礎と 21 世紀型医療の柱となる遺伝子診断法の原理およびその効用などを中心に話されました。20 世紀型医療が Ready made 医療であるならば、遺伝子診断医療は個人一人一人に合った Order made 医療であることの実例を挙げて話されました。



講演中の小堀先生



# 平成 22 年度「市民体験講座」と「グリーン探検隊」

生物資源フィールド科学教育研究センター長 巽 二郎

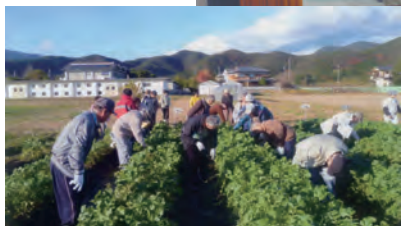
## ○市民体験講座

生物資源フィールド科学教育研究センターでは、毎年「自然ふれあい講座：ミニ講演会とフィールド体験」を初夏と初冬の年二回実施している。

ミニ講演会は嵯峨キャンパスの「学道会館」(学道会館は日本新薬株式会社および篤志家の寄付をもとに平成 18 年 3 月に落成)を会場に、センター教員が毎回交代して各専門分野から市民に親しみやすい話題を提供している。22 年度は「カイコはどのようにして糸をつくるのか?」(角田教授)、「遺伝子組換え作物の光と影」(巽教授)であった。

講演会の後はセンターの圃場にて初夏は馬鈴薯、初冬は大根を掘り取り、農作業の楽しさを味わってもらおう。馬鈴薯体験は参加費 1000 円で 1 区画(5kg 以上)、大根は参加費無料で持ち帰り 1 本 200 円(例年 100 円であるが、22 年の冬は大根不作につき高騰した)である。馬鈴薯や大根は学生実習圃場の一画に作られており、実習の余剰分をこの企画にあてる場合もある。無農薬栽培であり、害虫被害などで外観や品質の悪い年もあるが、おおもね味がよいと好評である。また教育研究用として多種の品種を栽培しており、通常では珍しい品種が入手できる時もある。

参加者は毎回 30~40 名程度である。平日開催につき比較的高齢の方が多く、大変熱心である。「もっと実施回数を多くして欲しい」という要望が寄せられているが、多忙化と人手不足のために十分期待に応えられないのが残念である。しかし社会に開かれた大学として、当センターの教育研究の成果をこのような企画を含めてさまざまな形で地域社会に還元することの大切さを痛感している。センターは緑多い嵯峨野に位置し、豊かな自然に恵まれている。環境問題や生物多様性、食料・資源・エネルギー問題などについて考え・学習する場としてふさわしいところである。この立地をさらに活かした市民学習プログラムや、幅広い年齢層の市民が参加していただける新しい企画を検討中である。



## ○グリーン探検隊

センターから徒歩 5 分のところに京都市立広沢小学校があり、コラボ授業を毎年行っている。三年生の「総合的学習」の一部で年間 6~8 回程度の授業である。担任の先生と学年全員(2 クラス)の児童がセンターに来場し、センター教員が授業を提供する。内容は担任の先生との話し合いで決めるが、体験的な学習が中心である。22 年度の授業内容は次の通り。

1. カイコの話(カイコ観察、カイコを持ち帰って育てよう)
2. ジャガイモ観察(ジャガイモの来た道、収穫しよう)
3. マユのお話(マユの作り方、マユ人形の工作)
4. 草木染め(アイの収穫と染色、ハンカチとマユを染めよう)
5. サツマイモの話(いろいろな色のサツマイモ、サツマイモ掘り)
6. ダイコンと土作り(ダイコンはどこが太るの? 馬糞を触ろう、大根引き)

生徒たちは毎回元気いっぱいセンター圃場の中の道を歩いてやってくる。授業中は活発で興味いっぱいの様子である。たくさんの笑顔と質問攻めにあう。掘り取ったジャガイモやカイコの入った箱などを得意げに持って帰る。生き物とそれをはぐくむ環境の役割と大切さ、生活とのつながりを身体で学び取って欲しいと思っている。勉強の成果を学校や家庭に持ち帰ることで、学習の輪が広がることを期待している。

以上、センターが行っている社会事業の一部を紹介した。これらの事業では材料の育成から現場の段取り準備まで技術職員・事務職員が大きな役割をはたしており、教職員一体となって取り組んでいる。





# 本学の就職支援について

学生サービス課就職支援室長 大角 英造

ここ数年、日本経済の景気悪化に伴い雇用状況が厳しく、「就職超氷河期」とも言われている現下の状況の中で、本学の学生支援センターでは学生のキャリア支援の方策について色々工夫を行い、タイムリーに様々な支援事業を実施しています。今回は紙面の都合により、その中でも特徴的なものに絞ってご報告します。

まず、平成22年度の就職活動に係る支援事業の主なものは、下表のとおりです。

10月と12月に実施した「**CAREER MEETING**」\*とは、本学内で、企業の人事担当者と本学学生が情報交換を行う場として開催している合同企業情報交換会です。

この合同企業情報交換会は、学内施設で開催する関係上、毎年、企業の参加要望が多いのですが、やむなく規模は有力企業50社の参加にとどめているのが現状で、本学の教育と研究が社会から支持されている本質的な面が顕著に表れるときでもあります。

また、本学の「**CAREER MEETING**」は、本学の学生向けの合同企業情報交換会であるため、様々な業種の人事担当者や本学卒業の先輩社員から仕事内容やキャリアプラン等について、膝と膝をつきあわせて直接話を聞く機会があるのが最大の特徴です。昨年参加企業のブースでは、卒業後(入社後)2~3年のOB・OGが

凛々しい企業人として、的確に後輩学生に対応している姿が印象的でした。

平成19年度からは、連携大学の京都府立大学生の参加もあり、企業側にとっても本当に充実したイベントとなっています。

更に、2012年春に卒業・修了予定者で公務員や教員を目指す学生を対象に「公務員・教員関係就職ガイダンス」を開催しました。

当日は、人事院近畿事務局や京都府教育委員会の採用担当者による各職種のPRと採用試験の説明が行われました。加えて、本学出身の京都市役所職員や京都市立高等学校教諭が、自らの体験に基づいた職業観、人生観にも及んだ講演と具体的な業務内容の説明もあり活発な質疑応答が行われました。

この他に11月から3月末に掛けては、更なる就職支援事業として、OBやOGからも評判の高い、就職活動の実践に即した「模擬面接」や「面接研修」を実施しています。

末筆になりましたが、学生支援センター内には、日々の進路指導や就職支援の充実・強化のため、就職相談室と就職資料室を設置していますので、在学生だけでなく卒業生の方も利用していただければと思います。

時 期	事 項	規 模	参加者
4月	「京都府・市公立学校教員採用試験」説明会		延 32名
5月~7月	「就職ガイダンス」(前半)	14講座	延 1,018名
10月~11月	「就職ガイダンス」(後半)	19講座	延 753名
10月	「OB・OGによる就職活動体験報告会」 *「 <b>CAREER MEETING I</b> 」		延 613名
12月	*「 <b>CAREER MEETING II</b> 」 「内定者による就職活動体験報告会」		延 671名
	「公務員・教員関係就職ガイダンス」		延 108名
11月~3月	「模擬面接」・「面接研修」	37回	



キャリアミーティング会場へ向う学生



先輩社員や人事担当者から直接説明を受ける参加者

## 大学一日体験入学を実施しました

本学では、平成22年7月末から8月初旬にかけて、5つの課程・専攻にて「大学一日体験入学」を実施しました。

それぞれの課程・専攻が、小中高生等を対象に特色ある講義や実習を行い、多くの小中高生およびその保護者等が本学を訪れました。大学の教育研究の一端を知るとともに、普段見ることのない大学の施設・設備に触れ、小中高生等は興味深げに体験入学に参加していました。

なお、定員の数倍の応募者があるものがあり、本学への関心の高さが窺える夏でした。

応用生物学課程  
「体験入学2010」 7月24日(土)  
参加者数：高校生63名・その他15名

- ①「構造生物学入門：タンパク質の形と働きを調べると何が分かるの?」(原田繁春教授)
- ②「生理学入門：ストレスとは?」(中島敏博教授)の二つの模擬授業を行いました。

参加者は、専門性豊かな講義に熱心に耳を傾け、講義後も活発な質疑応答が行われ、終了後は参加者ひとりひとりに修了証書が授与されました。



講義風景



修了証交付

機械システム工学専攻  
「創造性豊かなものづくり体験学習2010」  
7月28日(水)~7月29日(木)  
参加者数：①40名・②20名

- ①「ロストワックス法による鑄造作品制作」と②「レーザー加工機による芸術作品制作」の2種類の体験を平行して実施しました。

「ロストワックス法による鑄造作品制作」では、参加者が自分で作った型に金属を流し込み、オリジナルのオブジェを制作しました。また、「レーザー加工機による芸術作品制作」では、参加者が自作のデザインを基に、レーザー加工機で金属を切り抜き、オリジナルの壁掛け時計を制作しました。

両実習とも、参加者自身が研磨など仕上げ加工も行い作品を完成させました。ものづくりの大変さと面白さを知り、できあがった個性的な作品を、参加者は大事そうに持ち帰りました。



ロストワックス体験



レーザー加工体験

物質工学課程  
「大学一日体験入学」 8月2日(月)  
参加者数：高校生40名・中学生15名

講義「計算機で調べる化学反応が起こるしくみ」(小林久芳教授)の後、施設見学と4種類の実験を行いました。

実験では、①「表面の国のアメンボ-水表面

の不思議：しょうのう船・マール染-」、  
 ②「不思議な光る分子-緑のラインマーカーの色素を作ろう-」、③「色とりどりの七宝焼きを作ってみよう-ガラスの中の金属イオンの発色-」、④「分子を光で調べてみよう-光子のキャッチボールで探るなぞ-」の4種類から1つのテーマを選び、教員やスタッフの学生の指導を受けながら、研究者さながらの実験を行いました。



研究室見学



実験の様子

情報工学課程  
 「小中高生のための科学技術教室」  
 8月6日(金)  
 参加者数：40名

講義「コンピュータのしくみ」(辻野嘉宏教授)の後、オリジナルLEDライトの作成実習を行いました。

実習では、マイコンでLEDの発光を制御、タクトスイッチによる制御、光センサーからの情報取得などのプログラミングを体験しました。



講義の様子

電子回路を組みながら、それぞれの部品をプログラムで制御し、与えられた目標(例えば、光センサーが光を感じなくなったらLEDを点けるなど)を実現するためのプログラミングなどに、参加者全員が熱心に取り組みました。



LED ライト

電子システム工学課程  
 「小中高生のための科学技術教室」  
 8月10日(火)  
 参加者数：25名

講義「電線もない遠い距離をどうやって音声は飛んでくるのだろうか?」(島崎仁司准教授)や「大学における最前線を見てみよう!」と題した研究室の見学、そしてFMラジオの制作実習を行いました。

制作実習では、「はんだごて」や「ラジオペンチ」を使って部品を取り付けて、約4時間かけてラジオを完成させると、子どもたちは実際にFM番組が聞こえるかどうか、熱心に耳を傾けていました。



研究室見学



実習

## 課外活動

### アメリカンフットボール部

主将 恒松良輔  
(デザイン経営工学課程3回生)

私たちアメリカンフットボール部 COUGARS は、多くの選手、スタッフを有する、京工織最大の体育会系クラブです。チームの運営は学生が主体で行っており、コーチ陣も多くの学生OBが関わっているため、非常に結束力が強いのが特徴です。

昨年、残念ながら入れ替え戦における敗退により、今年はアメリカンフットボール連盟 Div.Ⅲブロックでシーズンを戦います。アメリカンフットボールはあらゆる準備が非常に重要なスポーツなので、シーズンまでに体力面ではもちろんのこと、戦術面、精神面での準備を重きに置き、一人ひとりが常に考えることで勝利に向かっていく所存です。

今年目標である2部昇格に向け、全力全“壊”のスローガンを置き練習していきます。どうぞ今年度のCOUGARSにご期待ください。



### バドミントン部

部長 藤田宇生  
(高分子機能工学課程2回生)

私たちバドミントン部は、現在13名が所属し、日々技術の向上を目指して週3で練習しています。2010年は、年に2回あるリーグ戦で、女子は春季・秋季ともに5部残留、男子は春季リーグで兵庫県立大学との入れ替え戦に勝利し、4部に昇格しました。秋季リーグで惜しくも5部に降格となってしまいましたが、今年度は男女ともに昇格を目指して、技術的にも精神的にも成長出来るようこれからも頑張っていきたいと思います。

また、リーグ戦の他にも、新入生歓迎会、三織体育大会、合宿、OB会、松ヶ崎祭、年に数回ある個人戦などの行事があります。OB会では、昨年が50周年ということで、多くの先輩方が参加して下さり、とても嬉しく思います。OB戦では、学ぶべき点が多々あり、これからもよりいっそう交流が深めていけたらと思います。

今年1年、チーム一丸となって頑張っていきますので、工織バドミントン部を応援よろしくお願いします。また、今年度のOB会におきましても、多くの方々の参加をお待ちしております。



### 女子ラクロス部

主将 尾内理夏  
(造形工学課程2回生)

私たち女子ラクロス部は、現在部員21人で活動しています。昨年は残念なことに力及ばず、目標としていたリーグ昇格をはたすことができませんでした。試合会場に応援に駆けつけてくださったOGの方々には本当に感謝しています。今年はリーグ昇格という目標を達成し、来年には2部リーグで好成績を残せるように、より力をつけ、チーム全体がひとつになって、同じ目標に向かって頑張っていきたいと思えます。今年こそリーグ戦でいい成績を残せるように、頑張っていきますので、応援をよろしくお願いします。今年度のOG戦におきましても、多くの方々のご参加をお待ちしております。



### 空手道部

主将 長谷川亮太  
(物質工学課程2回生)

私たち空手道部には、現在二回生3名、一回生3名の計6名が所属しています。練習は週4回行い、日々技術の向上を目指して活動しています。少人数であるので部員一同仲が良いですが、先輩が後輩に厳しく指導している姿もしばしば見られます。

2010年の全関西空手道選手権大会では、団体戦において惜しくも京都産業大学に敗れ、悔しい思いをしました。その後チーム全員で猛練習し、次に行われた全国国公立空手道選手権大会で東京外国語大学に圧勝することができました。練習の成果が実った試合であり、これが4回生の最後の大会となりました。遠い試合会場まで応援に駆けつけて激励して下さったOBの方々には本当に感謝しています。

2011年は個人のチームに対する意識をもっと高め、選手一丸となって、好成績を残していけるように日々練習に励んでいきますので、これからも空手道部を応援よろしくお願いします。



## 茶道部

部長 津田千嘉  
(機械システム工学課程 2 回生)

私たち茶道部は、裏千家学生茶道研究会(裏研)に所属し、現在部員7人で活動しています。週に3回練習しており、そのうち1回は外部からの先生に来て頂き、ご指導してもらっています。

主な行事に、1月の初釜茶会、7月の七夕茶会、8月のお茶碗ひねり、11月の松ヶ崎祭茶会、12月の本茶会があります。一番メインの本茶会はいつもお寺でしていたのですが、2010年は大学所有の京町屋キャンパスにて催しました。お越し頂いたOBの方々には大変感謝しております。また、裏研での行事には合同茶会やひな祭り茶会などがあり、季節ごとにたくさん行事があります。他大学のお茶会にも参加をし、自分たちの茶会の参考にしています。

茶道の魅力の1つは、華道、陶芸、和菓子、伝統工芸など様々な日本の文化を感じられるところにあります。茶道は日本の総合文化であり、日々の稽古でいろいろ学んでいます。

是非、茶会のさいには、ご参加をお待ちしております。これからも茶道部をよろしく願います。



## 奇術部

部長 中村誠希  
(機械システム工学課程 2 回生)

僕たちは主にジャグリングやマジックの活動をしています。ジャグリングとは大道芸の一種でボール、デビルスティック、ディアボロ、ポイなど様々な道具を使って人々を楽しませることです。マジックは主にトランプ、コイン、ロープなどの道具を使っています。現在、活動日は週一回会館ホールでジャグリング、不定期に図書館にてマジックの練習会をしています。活動日以外にも部室前や家で各自がそれぞれ技の上達に励んでいます。

発表は主に学祭で一般のお客さんを対象とするshowをはじめとし、5月、9月にも部内発表会を開いています。また、依頼を受けた地域の小学校や幼稚園、敬老会などでも公演を行っております。自分たちが大勢の人前に立つこと、日々練習した技でお客さんが驚き歓声をあげ拍手してくれることなどは普段できない貴重な経験です。これからもよりお客さんに楽しんでいただけるよう日々練習に励んでいきたいと思ひます。



## 漫画研究部

部長 竹林 修  
(情報工学課程 2 回生)

漫画を読むのが大好きな人、漫画を描くのが大好きな人、そんな人たちが集まって活動をしているのが私たち漫画研究部です。現役部員数は18名でファンタジー、恋愛、スポーツ、ギャグ……etcとさまざまなジャンルが好きな部員が集まっています。

私たち漫画研究部は、ゴールデンウィーク明けと松ヶ崎祭の年二回、パネル展を活動として行っています。パネル展では部員がそれぞれいろいろなジャンルのイラスト作品のパネルを作製し展示しています。また、展示以外にも部員が描いた同人誌コミック、新入生だけが集まって作った同人誌新入生本を配布しています。これが主な活動内容ですが、それ以外にも空き時間に部室で部のクロッキー帳に好きなイラストを描いたりしています。

やる気のある一回生が多く入ってきており、今までも増してこういった活動を通して漫画を描くための技術などを深めていきたいです。



## アメリカ民謡研究会 B&Bo

部長 神代圭佑  
(情報工学課程 3 回生)

現在3回生25人、2回生51人と現役だけで70人を越えるマンモスサークル、アメリカ民謡研究会 B&Bo…通称『アメ研』

我々はアメリカ民謡(フォークソング)をやっている!というわけではありません。もちろん創部当時はそうだったようですが、今ではバンド活動を中心にROCK・SKA・JAZZ・FUSION等…となんでもありで幅広いジャンルの音楽をやっているサークルです。

アメ研は音楽もそうですが遊びにも全力で、馬鹿騒ぎ大好きな人であふれかえっています。OB・OGの方々もよく遊びに来てくださり、現役としてのヨコの繋がりがだけでなくタテのつながりも深いのがこのサークルの良いところで、アメ研全体で一つの笑いや楽しさ・感動を分かち合えます。

最後に、アメ研の醍醐味は信頼できる仲間たちと本気でぶつかり合って共に成長してゆけるところにあります。今後ともアメリカ民謡研究会 B&Boをよろしく願います。



## 課外活動

### アメリカンフットボール部

主将 恒松良輔  
(デザイン経営工学課程3回生)

私たちアメリカンフットボール部 COUGARS は、多くの選手、スタッフを有する、京工織最大の体育会系クラブです。チームの運営は学生が主体で行っており、コーチ陣も多くの学生OBが関わっているため、非常に結束力が強いのが特徴です。

昨年、残念ながら入れ替え戦における敗退により、今年はアメリカンフットボール連盟 Div.Ⅲブロックでシーズンを戦います。アメリカンフットボールはあらゆる準備が非常に重要なスポーツなので、シーズンまでに体力面ではもちろんのこと、戦術面、精神面での準備を重きに置き、一人ひとりが常に考えることで勝利に向かっていく所存です。

今年目標である2部昇格に向け、全力全“壊”のスローガンを置き練習していきます。どうぞ今年度のCOUGARSにご期待ください。



### バドミントン部

部長 藤田宇生  
(高分子機能工学課程2回生)

私たちバドミントン部は、現在13名が所属し、日々技術の向上を目指して週3で練習しています。2010年は、年に2回あるリーグ戦で、女子は春季・秋季ともに5部残留、男子は春季リーグで兵庫県立大学との入れ替え戦に勝利し、4部に昇格しました。秋季リーグで惜しくも5部に降格となってしまいましたが、今年度は男女ともに昇格を目指して、技術的にも精神的にも成長出来るようこれからも頑張っていきたいと思います。

また、リーグ戦の他にも、新入生歓迎会、三織体育大会、合宿、OB会、松ヶ崎祭、年に数回ある個人戦などの行事があります。OB会では、昨年が50周年ということで、多くの先輩方が参加して下さり、とても嬉しく思います。OB戦では、学ぶべき点が多々あり、これからもよりいっそう交流が深めていけたらと思います。

今年1年、チーム一丸となって頑張っていきますので、工織バドミントン部を応援よろしくお願いします。また、今年度のOB会におきましても、多くの方々の参加をお待ちしております。



### 女子ラクロス部

主将 尾内理夏  
(造形工学課程2回生)

私たち女子ラクロス部は、現在部員21人で活動しています。昨年は残念なことに力及ばず、目標としていたリーグ昇格をはたすことができませんでした。試合会場に応援に駆けつけてくださったOGの方々には本当に感謝しています。今年はリーグ昇格という目標を達成し、来年には2部リーグで好成績を残せるように、より力をつけ、チーム全体がひとつになって、同じ目標に向かって頑張っていきたいと思えます。今年こそリーグ戦でいい成績を残せるように、頑張っていきますので、応援をよろしくお願ひします。今年度のOG戦におきましても、多くの方々のご参加をお待ちしております。



### 空手道部

主将 長谷川亮太  
(物質工学課程2回生)

私たち空手道部には、現在二回生3名、一回生3名の計6名が所属しています。練習は週4回行い、日々技術の向上を目指して活動しています。少人数であるので部員一同仲が良いですが、先輩が後輩に厳しく指導している姿もしばしば見られます。

2010年の全関西空手道選手権大会では、団体戦において惜しくも京都産業大学に敗れ、悔しい思いをしました。その後チーム全員で猛練習し、次に行われた全国国公立空手道選手権大会で東京外国語大学に圧勝することができました。練習の成果が実った試合であり、これが4回生の最後の大会となりました。遠い試合会場まで応援に駆けつけて激励して下さったOBの方々には本当に感謝しています。

2011年は個人のチームに対する意識をもっと高め、選手一丸となって、好成績を残していけるように日々練習に励んでいきますので、これからも空手道部を応援よろしくお願いします。



## 茶道部

部長 津田千嘉  
(機械システム工学課程 2 回生)

私たち茶道部は、裏千家学生茶道研究会(裏研)に所属し、現在部員7人で活動しています。週に3回練習しており、そのうち1回は外部からの先生に来て頂き、ご指導してもらっています。

主な行事に、1月の初釜茶会、7月の七夕茶会、8月のお茶碗ひねり、11月の松ヶ崎祭茶会、12月の本茶会があります。一番メインの本茶会はいつもお寺でしていたのですが、2010年は大学所有の京町屋キャンパスにて催しました。お越し頂いたOBの方々には大変感謝しております。また、裏研での行事には合同茶会やひな祭り茶会などがあり、季節ごとにたくさん行事があります。他大学のお茶会にも参加をし、自分たちの茶会の参考にしています。

茶道の魅力の1つは、華道、陶芸、和菓子、伝統工芸など様々な日本の文化を感じられるところにあります。茶道は日本の総合文化であり、日々の稽古でいろいろ学んでいます。

是非、茶会のさいには、ご参加をお待ちしております。これからも茶道部をよろしく願います。

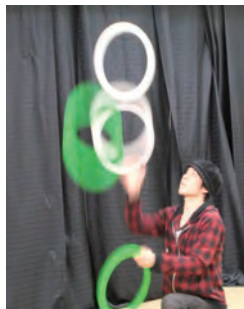


## 奇術部

部長 中村誠希  
(機械システム工学課程 2 回生)

僕たちは主にジャグリングやマジックの活動をしています。ジャグリングとは大道芸の一種でボール、デビルスティック、ディアボロ、ポイなど様々な道具を使って人々を楽しませることです。マジックは主にトランプ、コイン、ロープなどの道具を使っています。現在、活動日は週一回会館ホールでジャグリング、不定期に図書館にてマジックの練習会をしています。活動日以外にも部室前や家で各自がそれぞれ技の上達に励んでいます。

発表は主に学祭で一般のお客さんを対象とするshowをはじめとし、5月、9月にも部内発表会を開いています。また、依頼を受けた地域の小学校や幼稚園、敬老会などでも公演を行っております。自分たちが大勢の人前に立つこと、日々練習した技でお客さんが驚き歓声をあげ拍手してくれることなどは普段できない貴重な経験です。これからもよりお客さんに楽しんでいただけるよう日々練習に励んでいきたいと思ひます。



## 漫画研究部

部長 竹林 修  
(情報工学課程 2 回生)

漫画を読むのが大好きな人、漫画を描くのが大好きな人、そんな人たちが集まって活動をしているのが私たち漫画研究部です。現役部員数は18名でファンタジー、恋愛、スポーツ、ギャグ……etcとさまざまなジャンルが好きな部員が集まっています。

私たち漫画研究部は、ゴールデンウィーク明けと松ヶ崎祭の年二回、パネル展を活動として行っています。パネル展では部員がそれぞれいろいろなジャンルのイラスト作品のパネルを作製し展示しています。また、展示以外にも部員が描いた同人誌コミック、新入生だけが集まって作った同人誌新入生本を配布しています。これが主な活動内容ですが、それ以外にも空き時間に部室で部のクロッキー帳に好きなイラストを描いたりしています。

やる気のある一回生が多く入ってきており、今までも増してこういった活動を通して漫画を描くための技術などを深めていきたいです。



## アメリカ民謡研究会 B&Bo

部長 神代圭佑  
(情報工学課程 3 回生)

現在3回生25人、2回生51人と現役だけで70人を越えるマンモスサークル、アメリカ民謡研究会 B&Bo…通称『アメ研』

我々はアメリカ民謡(フォークソング)をやっている!というわけではありません。もちろん創部当時はそうだったようですが、今ではバンド活動を中心に ROCK・SKA・JAZZ・FUSION etc...となんでもありで幅広いジャンルの音楽をやっているサークルです。

アメ研は音楽もそうですが遊びにも全力で、馬鹿騒ぎ大好きな人であふれかえっています。OB・OGの方々もよく遊びに来てくださり、現役としてのヨコの繋がりだけでなくタテのつながりも深いのがこのサークルの良いところで、アメ研全体で一つの笑いや楽しさ・感動を分かち合えます。

最後に、アメ研の醍醐味は信頼できる仲間たちと本気でぶつかり合って共に成長してゆけるところにあります。今後ともアメリカ民謡研究会 B&Bo をよろしく願ひします。



## 叙位・会員・教員の受賞

- 養蚕学科(昭和32年卒業)森本尚武氏に、平成22年5月7日付けで瑞宝重光章が授与されました。
- 本学学長特任補佐・名誉教授 田中信男氏は、平成22年4月13日付けで平成22年度科学技術分野の「文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)」を受賞されました。
- 母校元教授 小西博喜氏は、平成23年3月16日付けで京都府スポーツ賞(特別栄誉賞)を受賞されました。

所属	役職等	氏名	受賞名	授与機関	受賞日
情報工学部門	准教授	水野 修	嵩賞(Kasami Award)	大阪大学大学院情報科学研究科	平成 21.11.10
造形工学部門	准教授	米田 明	WAN AWARDS 09 House of the Year	WORLD ARCHITECTURE NEWS(LONDON, ENGLAND)	平成 22. 2. 8
物質工学部門	准教授	吉田 裕美 前田 耕治	Hot Article Award Analytical Sciencenes をグループ受賞	日本分析化学会	平成 22. 2.10
電子システム工学部門	教授	裏 升吾	光・電子集積技術業績賞(林 厳雄賞)	応用物理学会	平成 22.3.17
造形工学部門	准教授	米田 明	International Design Awards 2009 の Architecture Categories-Professional, New Residential Building(建築物-専門家、居住用建築物)の部において FIRST PRIZE を受賞	International Design Awards	平成 22. 3.26
造形工学部門	准教授	米田 明	International Design Awards 2009 の Architecture Categories-Professional, New Commercial Building(建築物-専門家、商業用建築物)の部において FIRST PRIZE を受賞	International Design Awards	平成 22. 3.26
電子システム工学部門	教授	野田 実	APEX/JJAP 編集貢献賞	(社)応用物理学会	平成 22. 4.14
建築造形学部門	准教授	米田 明	D&AD Awards 2010 Environmental Design / Leisure & Tourism In Book / The Bronze Award をグループ受賞	D&AD(British Design & Art Direction)	平成 22. 5. 7
高分子機能工学部門	准教授	陣内 浩司	第1回ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞	(社)日本ゴム協会	平成 22. 5.20
情報工学部門	准教授	水野 修	日本信頼性学会優秀賞をグループ受賞	日本信頼性学会	平成 22. 5.28
機械システム工学部門	准教授	高木 知弘	日本計算力学奨励賞	日本計算力学連合	平成 22. 7.19
生体分子工学部門	准教授	池上 亨	Journal of Chromatography A Top Cited Article 2007-2009 をグループ受賞	エルゼビア社	平成 22. 7.
生体分子工学部門	准教授	池上 亨	Journal of Chromatography A Highly Cited Author Award 2007-2009 をグループ受賞	エルゼビア社	平成 22. 7.
情報工学部門	教授	岡 夏樹 尾関 基行	人工知能学会全国大会優秀賞をグループ受賞	(社)人工知能学会	平成 22. 7.16
建築造形学部門	教授	鈴木 克彦	2010年度日本建築学会技術部門設計競技優秀賞をグループ受賞	(社)日本建築学会	平成 22. 9. 9
高分子機能工学部門	教授	猿山 靖夫	2010年度日本熱測定学会賞受賞	日本熱測定学会	平成 22. 9.28
機械システム工学部門	准教授	北川 石英	日本機械学会流体工学部門貢献賞を受賞	日本機械学会流体工学部門	平成 22.10.30
建築造形学部門	教授	鈴木 克彦	2010年都市住宅学会賞業績賞をグループ受賞	(社)都市住宅学会	平成 22.11.27
電子システム工学部門	准教授	比村 治彦	プラズマ・核融合学会賞貢献賞を受賞	(社)プラズマ・核融合学会	平成 22.11.30
情報工学部門	助教	尾関 基行 岡 夏樹	第6回モーションメディアコンテンツコンテスト最優秀賞をグループ受賞	計測自動制御学会システムインテグレーション部会モーションメディア部会	平成 22.11.13

## 教員の異動

平成23年4月1日現在

所属	職名	氏名	備考
大学院工芸科学研究科(生命物質科学系 バイオベースマテリアル学部門)	助教	綿 岡 勲	平成22年4月1日採用 任期は平成27年3月31日までとする
情報科学センター	准教授	栞 田 秀 夫	平成22年4月1日任期を更新する (平成22年4月1日から平成27年3月31日まで)
大学院工芸科学研究科(設計工学系 先端ファイブプロ科学部門)	教授	西 村 寛 之	平成22年5月1日採用
生物資源フィールド科学教育研究センター	教授	伊 藤 雅 信	平成22年5月1日昇任
大学院工芸科学研究科(設計工学系 電子システム工学部門)	教授	門 勇 一	平成22年7月1日採用 (NTT先端技術総合研究所マイクロシステムインテグレーション研究所スマートデバイス研究部長)
伝統みらい教育研究センター	准教授	仲 井 朝 美	平成22年7月1日配置換(研究推進本部) 任期は、平成27年6月30日までとする
大学院工芸科学研究科(基盤科学系 言語・文化部門)	准教授	BALINT, DEN- NIS MAR TIN	平成22年8月25日退職



所 属	職名	氏 名	備 考
大学院工芸科学研究科 (基盤科学系 言語・文化部門)	准教授	深 田 智	平成22年9月1日採用 (聖トマス大学人間文化共生学部教授)
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 高分子機能工学部門)	准教授	山 雄 健 史	平成22年10月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 機械システム工学部門)	准教授	西 田 耕 介	平成22年11月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 先端ファイブプロ科学部門)	助 手	岡 野 政 則	平成22年11月30日退職
大学院工芸科学研究科 (造形科学系 建築造形学部門)	助 教	北 尾 聡 子	平成22年12月1日配置換
創 造 連 携 セ ン タ ー	准教授	稲 岡 美 恵 子	平成22年12月16日採用 任期は平成27年12月15日までとする
環 境 科 学 セ ン タ ー	教 授	山 田 悦	平成23年1月1日任期を更新する (平成23年1月1日から平成27年12月31日まで)
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 情報工学部門)	准教授	梅 原 大 祐	平成23年3月1日採用 (京都大学大学院情報学研究所助教)
大学院工芸科学研究科	准教授	陣 内 浩 司	平成23年3月31日付退職
大学院工芸科学研究科 (基盤科学系 数理・自然部門)	准教授	磯 崎 泰 樹	平成23年4月1日付採用
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 高分子機能工学部門)	助 教	木 梨 憲 司	平成23年4月1日付採用 任期は平成28年3月31日までとする
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 機械システム工学部門)	助 教	山 口 桂 司	平成23年4月1日付採用 任期は平成28年3月31日までとする
大学院工芸科学研究科 (造形科学系 デザイン学部門)	教 授	人 見 光 太 郎	平成23年4月1日付昇任
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 生体分子工学部門)	教 授	岸 本 通 雅	平成23年4月1日付配置換
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 生体分子工学部門)	准教授	亀 井 加 恵 子	平成23年4月1日付配置換
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 生体分子工学部門)	助 教	熊 田 陽 一	平成23年4月1日付配置換

## 平成22年度博士学位取得者と学位論文題名

### ○課程修了によるもの（課程博士）

(平成22年9月24日授与)

申 請 者	論 文 題 目
平尾 浩一 (ひらお こういち)	Synthesis and Recycle of Poly (L-lactic acid) under Microwave Irradiation(マイクロ波照射を用いたポリ乳酸の合成及びリサイクル)
杉森 秀一 (すぎもり ひでかず)	Morphological Studies of Multi-component Block Copolymers through Developments of Dual-Axis Electron Tomography(二軸傾斜三次元電子顕微鏡法によるブロック共重合体が形成するマイクロ相分離構造の構造解析)
岩瀬 雅紀 (いわせ まさのり)	スポーツユニフォームの色彩に対する観戦者の印象とその効果
堀川 健 (ほりかわ けん)	非可逆移相右手/左手系複合伝送線路からの漏洩波放射に関する研究
久保 浩三 (くぼ こうぞう)	ソフトウェア構築における法的紛争解決のための構築過程可視化に関する研究
ZHANG, Xiwen (ちょう きぶん)	Study on Structure and Properties of Electrospun PLA Nanofibers(電界紡糸 PLA ナノファイバーの構造と特性に関する研究)
八木 伸一 (やぎ しんいち)	モンモリロナイト添加によるアクリルゴムナノコンポジットの調製とアクリルゴムの高性能化
小西 礼一 (こにし れいち)	環境配慮型フィルム熱接合部の力学的特性に関する研究
OGAZI-ONYEMAECHEI, Bernard Chukwuemeka おがじおにやまえちいべあなどちゅういめか	INVESTIGATIONS ON THE FRACTURE BEHAVIOR AND NOTCH SENSITIVITY OF INJECTION MOLDINGS(射出成形品の破壊様相とノッチ感度に関する研究)
李 浚載 (い じゅんじえ)	Higher Order Structural Analysis of Stereocomplex Type Wet-spun PLA Fibers(様々な混合溶液の調節による湿式紡糸したPLA繊維のステレオコンプレックス発現と高次構造解析)
湊 順子 (みなと じゅんこ)	高層建築物を想定した数値計算用模擬風力波形の生成と構造物の状態推定

### ○論文提出によるもの（論文博士）

(平成22年9月24日授与)

申 請 者	論 文 題 目
北尾 聡子 (きたお さとこ)	ファジィ理論を用いた建築骨組の満足度指定設計法
下出 祐太郎 (しもで ゆうたろう)	漆の美の物性と伝統髹漆法に関する研究

## 叙位・会員・教員の受賞

- 養蚕学科(昭和32年卒業)森本尚武氏に、平成22年5月7日付けで瑞宝重光章が授与されました。
- 本学学長特任補佐・名誉教授 田中信男氏は、平成22年4月13日付けで平成22年度科学技術分野の「文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)」を受賞されました。
- 母校元教授 小西博喜氏は、平成23年3月16日付けで京都府スポーツ賞(特別栄誉賞)を受賞されました。

所属	役職等	氏名	受賞名	授与機関	受賞日
情報工学部門	准教授	水野 修	嵩賞(Kasami Award)	大阪大学大学院情報科学研究科	平成 21.11.10
造形工学部門	准教授	米田 明	WAN AWARDS 09 House of the Year	WORLD ARCHITECTURE NEWS(LONDON, ENGLAND)	平成 22. 2. 8
物質工学部門	准教授	吉田 裕美 前田 耕治	Hot Article Award Analytical Sciencenes をグループ受賞	日本分析化学会	平成 22. 2.10
電子システム 工学部門	教授	裏 升吾	光・電子集積技術業績賞(林 厳雄賞)	応用物理学会	平成 22.3.17
造形工学部門	准教授	米田 明	International Design Awards 2009 の Architecture Categories-Professional, New Residential Building(建築物- 専門家、居住用建築物)の部におい て FIRST PRIZE を受賞	International Design Awards	平成 22. 3.26
造形工学部門	准教授	米田 明	International Design Awards 2009 の Architecture Categories-Professional, New Commercial Building(建築物- 専門家、商業用建築物)の部にお いて FIRST PRIZE を受賞	International Design Awards	平成 22. 3.26
電子システム 工学部門	教授	野田 実	APEX/JJAP 編集貢献賞	(社)応用物理学会	平成 22. 4.14
建築造形学部門	准教授	米田 明	D&AD Awards 2010 Environ- mental Design / Leisure & Tourism In Book / The Bronze Award をグ ループ受賞	D&AD(British Design & Art Direction)	平成 22. 5. 7
高分子機能 工学部門	准教授	陣内 浩司	第1回ブリヂストンソフトマテリア ルフロンティア賞	(社)日本ゴム協会	平成 22. 5.20
情報工学部門	准教授	水野 修	日本信頼性学会優秀賞をグループ受 賞	日本信頼性学会	平成 22. 5.28
機械システム 工学部門	准教授	高木 知弘	日本計算力学奨励賞	日本計算力学連合	平成 22. 7.19
生体分子 工学部門	准教授	池上 亨	Journal of Chromatography A Top Cited Article 2007-2009 をグ ループ受賞	エルゼビア社	平成 22. 7.
生体分子 工学部門	准教授	池上 亨	Journal of Chromatography A Highly Cited Author Award 2007 -2009 をグループ受賞	エルゼビア社	平成 22. 7.
情報工学部門	教授	岡 夏樹 尾関 基行	人工知能学会全国大会優秀賞をグ ループ受賞	(社)人工知能学会	平成 22. 7.16
建築造形学部門	教授	鈴木 克彦	2010年度日本建築学会技術部門設 計競技優秀賞をグループ受賞	(社)日本建築学会	平成 22. 9. 9
高分子機能 工学部門	教授	猿山 靖夫	2010年度日本熱測定学会賞受賞	日本熱測定学会	平成 22. 9.28
機械システム 工学部門	准教授	北川 石英	日本機械学会流体工学部門貢献賞を 受賞	日本機械学会流体工学部門	平成 22.10.30
建築造形学部門	教授	鈴木 克彦	2010年都市住宅学会賞業績賞をグ ループ受賞	(社)都市住宅学会	平成 22.11.27
電子システム 工学部門	准教授	比村 治彦	プラズマ・核融合学会賞貢献賞を受 賞	(社)プラズマ・核融合学会	平成 22.11.30
情報工学部門	助教	尾関 基行 岡 夏樹	第6回モーションメディアコンテツ コンテスト最優秀賞をグループ受賞	計測自動制御学会 システムインテグレーション部会 モーションメディア部会	平成 22.11.13

## 教員の異動

平成23年4月1日現在

所属	職名	氏名	備考
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 バイオベースマテリアル学部門)	助教	綿 岡 勲	平成22年4月1日採用 任期は平成27年3月31日までとする
情報科学センター	准教授	栞 田 秀 夫	平成22年4月1日任期を更新する (平成22年4月1日から平成27年3月31日まで)
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 先端ファイブプロ科学部門)	教授	西 村 寛 之	平成22年5月1日採用
生物資源フィールド科学教育研究センター	教授	伊 藤 雅 信	平成22年5月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 電子システム工学部門)	教授	門 勇 一	平成22年7月1日採用 (NTT先端技術総合研究所マイクロシステムインテグ レーション研究所スマートデバイス研究部長)
伝統みらい教育研究センター	准教授	仲 井 朝 美	平成22年7月1日配置換(研究推進本部) 任期は、平成27年6月30日までとする
大学院工芸科学研究科 (基盤科学系 言語・文化部門)	准教授	BALINT, DEN- NIS MAR TIN	平成22年8月25日退職

所 属	職名	氏 名	備 考
大学院工芸科学研究科 (基盤科学系 言語・文化部門)	准教授	深 田 智	平成22年9月1日採用 (聖トマス大学人間文化共生学部教授)
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 高分子機能工学部門)	准教授	山 雄 健 史	平成22年10月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 機械システム工学部門)	准教授	西 田 耕 介	平成22年11月1日昇任
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 先端ファイブプロ科学部門)	助 手	岡 野 政 則	平成22年11月30日退職
大学院工芸科学研究科 (造形科学系 建築造形学部門)	助 教	北 尾 聡 子	平成22年12月1日配置換
創 造 連 携 セ ン タ ー	准教授	稲 岡 美 恵 子	平成22年12月16日採用 任期は平成27年12月15日までとする
環 境 科 学 セ ン タ ー	教 授	山 田 悦	平成23年1月1日任期を更新する (平成23年1月1日から平成27年12月31日まで)
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 情報工学部門)	准教授	梅 原 大 祐	平成23年3月1日採用 (京都大学大学院情報学研究所助教)
大学院工芸科学研究科	准教授	陣 内 浩 司	平成23年3月31日付退職
大学院工芸科学研究科 (基盤科学系 数理・自然部門)	准教授	磯 崎 泰 樹	平成23年4月1日付採用
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 高分子機能工学部門)	助 教	木 梨 憲 司	平成23年4月1日付採用 任期は平成28年3月31日までとする
大学院工芸科学研究科 (設計工学系 機械システム工学部門)	助 教	山 口 桂 司	平成23年4月1日付採用 任期は平成28年3月31日までとする
大学院工芸科学研究科 (造形科学系 デザイン学部門)	教 授	人 見 光 太 郎	平成23年4月1日付昇任
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 生体分子工学部門)	教 授	岸 本 通 雅	平成23年4月1日付配置換
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 生体分子工学部門)	准教授	亀 井 加 恵 子	平成23年4月1日付配置換
大学院工芸科学研究科 (生命物質科学系 生体分子工学部門)	助 教	熊 田 陽 一	平成23年4月1日付配置換

## 平成22年度博士学位取得者と学位論文題名

### ○課程修了によるもの（課程博士）

(平成22年9月24日授与)

申 請 者	論 文 題 目
平尾 浩一 (ひらお こういち)	Synthesis and Recycle of Poly (L-lactic acid) under Microwave Irradiation(マイクロ波照射を用いたポリ乳酸の合成及びリサイクル)
杉森 秀一 (すぎもり ひでかず)	Morphological Studies of Multi-component Block Copolymers through Developments of Dual-Axis Electron Tomography(二軸傾斜三次元電子顕微鏡法によるブロック共重合体が形成するマイクロ相分離構造の構造解析)
岩瀬 雅紀 (いわせ まさのり)	スポーツユニフォームの色彩に対する観戦者の印象とその効果
堀川 健 (ほりかわ けん)	非可逆移相右手/左手系複合伝送線路からの漏洩波放射に関する研究
久保 浩三 (くぼ こうぞう)	ソフトウェア構築における法的紛争解決のための構築過程可視化に関する研究
ZHANG, Xiwen (ちょう きぶん)	Study on Structure and Properties of Electrospun PLA Nanofibers(電界紡糸 PLA ナノファイバーの構造と特性に関する研究)
八木 伸一 (やぎ しんいち)	モンモリロナイト添加によるアクリルゴムナノコンポジットの調製とアクリルゴムの高性能化
小西 礼一 (こにし れいち)	環境配慮型フィルム熱接合部の力学的特性に関する研究
OGAZI-ONYEMAECHEI, Bernard Chukwuemeka (おがじおにやまえちい-どちゅういめか)	INVESTIGATIONS ON THE FRACTURE BEHAVIOR AND NOTCH SENSITIVITY OF INJECTION MOLDINGS(射出成形品の破壊様相とノッチ感度に関する研究)
李 浚載 (い じゅんじえ)	Higher Order Structural Analysis of Stereocomplex Type Wet-spun PLA Fibers(様々な混合溶液の調節による湿式紡糸したPLA繊維のステレオコンプレックス発現と高次構造解析)
湊 順子 (みなと じゅんこ)	高層建築物を想定した数値計算用模擬風力波形の生成と構造物の状態推定

### ○論文提出によるもの（論文博士）

(平成22年9月24日授与)

申 請 者	論 文 題 目
北尾 聡子 (きたお さとこ)	ファジィ理論を用いた建築骨組の満足度指定設計法
下出 祐太郎 (しもで ゆうたろう)	漆の美の物性と伝統髹漆法に関する研究

## ○課程修了によるもの（課程博士）

（平成23年3月25日授与）

申請者	論文題目
大狩 佳子 (おおかり よしこ)	がんの $\delta$ -aminolevulinic acid (ALA) 誘因性光力学的療法の分子機構と応用に関する研究
二階堂 義和 (にかいどう よしかず)	Analysis of Prefrontal Cortex Neural Activity, Emotional Behavior, and Endocrine System in Response to Olfaction
的場 一晃 (まとば かずあき)	抗寄生虫薬の論理的設計に向けた標的タンパク質の構造研究
柳 直樹 (やなぎ なおき)	近紫外光照射で生成するヒト毛髪 $\alpha$ ケラチン由来ジスルフィドおよびトリスルフィド中性ラジカルの構造と反応性
NGUYEN TRONG TUE (ぬえん とうらん とうえ)	Identification of transcriptional regulation factors and their roles on <i>Drosophila p53</i> gene expression
PUPPULIN LEONARDO (ぷっぷりん れおなるど)	Development of confocal and polarized Raman techniques for the analysis of biomaterials for knee and hip joint replacements
齋藤 正裕 (さいとう まさひろ)	ION BEAM ANALYSIS FOR POLYMERIC MATERIALS – APPLICATION OF ALUMINUM COATING TO REDUCE COMPOSITIONAL AND STRUCTURAL CHANGE –
堀井 裕子 (ほりい ゆうこ)	The mechanism of physiological responses and homeostasis analyzed by electrophysiological measurement
山本 稔 (やまもと みのる)	Polymeric Materials Design by Macromonomers
末次 竜也 (すえつぐ たつや)	ステイン法によるガラスへのイオンの導入とその応用に関する研究
桶谷 新也 (おけたに しんや)	画像処理による繊維付着汚れの鮮明化
田中 一晶 (たなか かずあき)	人-ロボット教示インタラクションにおける「間」の有効利用に関する研究
山名田 信哉 (やまなだ しんや)	スペckル干渉法を用いた表面振動計測による骨折治癒状態の計算機援用非侵襲評価
JAMES ANNE MARI (じえ-むす あん まり)	Towards the Integration of Multimedia and Architecture: A Theoretical Framework for Understanding the Architectural Significance of Multimedia
TAN VINCENT LOUIE VILLAESCUSA (たん ぐんせんと ろうい ぐわいせつ(き)	Evading Issues: The Confiscation, Evaluation and Shipment of Japanese War Record Paintings
LUANGJINDA CHOLRIT (りよんじんだ ちよりっと)	A HUMAN GENERATING ELECTRICITY IN PRODUCT DESIGN PROCESSES
小池 志保子 (こいけ しほこ)	日本の公設美術館における空間構成の変容に関する研究
杉本 美貴 (すぎもと よしたか)	家電製品のエコロジカルな使用を促す表示方法の研究
石丸 園子 (いしまる そのこ)	衣服圧を考慮した快適衣服設計に関する研究
太田 智子 (おおた ともこ)	Study on injection molded natural fiber hybrid reinforced polypropylene
木村 勉 (きむら つとむ)	手話表記法統一フォーマットの提案とそれを用いた聴覚障がい者向け支援システムの開発
高井 由佳 (たかい ゆか)	炭素繊維組物複合材料の高機能化設計に関する研究
長井 聡 (ながい さとし)	ポリオキシメチレン複合材料の研究
THUMSORN SUPAPHORN (さむそーん すばほーん)	Mechanical Performance and Thermal Decomposition Kinetic of Mineral filled Thermoplastics
大澤 香奈子 (おおさわ かなこ)	JOURNAL DES DAMES ET DES MODES における服飾の定量的分析
北野 勝久 (きたの かつひさ)	メタロセン系ポリエチレン/ポリプロピレン多層成形体の界面構造形成と物性に関する研究

## ○論文提出によるもの（論文博士）

（平成23年3月25日授与）

申請者	論文題目
原馬 明子 (はらうま あきこ)	n-3系脂肪酸の情動行動への関与と脳組織への蓄積に関する研究
中西 啓 (なかにし ひろし)	他者との関係性における象徴形成過程から分析するデザインの提示と受容のされ方に関する研究

# 卒業生・修了生の就職先・進学先

(平成 22 年度 進路先内定状況一覧)

学生サービス課就職支援室長 大角 英造

## 工芸科学部

(H23.2.8 現在)

### 応用生物学課程

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
インテック	1	京大進研インターナショナル	1	参天製薬	1	シンプレクス・コンサルティング	1
竹内園芸	1	Barclays Capital	1	京都工芸繊維大学	37	京都大学	2
奈良先端科学技術大学院大学	2	京都府立大学	1	大阪大学	1		

### 生体分子工学課程

綾羽工業	1	大鵬薬品工業	1	ダイニック	1	ライフネット難波	1
京都工芸繊維大学	36	京都大学	6	大阪大学	2		

### 高分子機能工学課程

大同工業	1	京都工芸繊維大学	30	京都大学	2	東京大学	1
東京工業大学	1						

### 物質工学課程

インテリジェンス	1	カネボウ化粧品	1	キョードー大阪	1	京阪セロファン	1
鳥取県警察	1	京都工芸繊維大学	51	京都大学	3	奈良先端科学技術大学院大学	2
大阪大学	1						

### 電子システム工学課程

アスパーク	1	エルピーダメモリ	1	応用電機	1	大阪大学	1
キヤノン	1	キヤノンマシナリー	1	グローリー	1	ケービテパイス	1
光洋サーモシステム	1	新日本工機	1	日本電産リード	1	パナソニックセミコンダクターシステムテクノ	1
日立コンシューマ・マーケティング	1	富士通テン	1	古河 AS	1	北陽電機	1
京都工芸繊維大学	37	京都大学	5	大阪大学	4	東京大学	2
奈良先端科学技術大学院大学	2	北陸先端科学技術大学院大学	2	東北大学	1	兵庫県立大学	1

### 情報工学課程

紀陽銀行	1	京セラコミュニケーションシステム	1	京都市教育委員会	1	ソフトバンクグループ通信3社	1
ソフトウェア情報開発	1	山一織物	1	京都工芸繊維大学	44	奈良先端科学技術大学院大学	2
北陸先端科学技術大学院大学	2	京都大学	1	京都大学	1	東京工業大学	1

### 機械システム工学課程

アルプス技研	1	大阪府立高等学校	1	神津製作所	1	キヤノン	1
京セラ	1	享代クリエイト	1	京都市水道局	1	大成化工	1
大日本スクリーン製造	1	大和ハウス工業	1	タカスタンダード	1	タマディック	1
東洋ゴム工業	1	日立エンジニアリング・アンド・サービス	1	フルキャストテクノロジー	1	本田技研工業	1
三菱重工プラント建設	1	三菱電機	1	三菱電機	1	村元製作所	1
ヤマザキマザック	1	YKK	1	京都工芸繊維大学	48	京都大学	5
奈良先端科学技術大学院大学	4	大阪大学	3	東京工業大学	1	大阪府立大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1						

### デザイン経営工学課程

イオンモール	1	エス・ピー・シー	1	遠藤照明	1	オノライティング	1
呉竹	1	kccs マネジメントコンサルティング	1	ジェイアール西日本デリーサービスネット	1	ジェイ・ビー・シー	1
大日本住友製薬	1	つちえ薬局	1	土山印刷	1	敦賀市役所(福井県)	1
テクノアソシエ	1	東リ	1	トーホーグループ	1	中津急行	1
ひかりのくに	1	日立電子サービス	1	ヒューマンシステム	1	ミスノ	1
ヤマブラ	1	ラプラス・システム	1	京都工芸繊維大学	10	首都大学東京	1

### 造形工学課程

(公務員)	1	アイ・シー・アイデザイン研究所	1	アップガレージ	1	アルテマイスターグループ	1
es 設計所(今井裕夫一級建築事務所)	1	伊田工務店	1	INAX	1	A.C.E. 波多野一級建築士事務所	1
NRI ネットワークコミュニケーションズ	1	オカモト産業	1	河淳	1	コミュニチュア	1
新日本カレンダー	1	大和ハウス工業	2	TAPROOT	1	谷口工務店	1
陶額堂	1	東京都特別区職員	1	トヨタすまいるライフ	1	トライボッド・デザイン	1
ニトリ	1	野村建設工業	1	三重県	1	三井ホーム	1
京都工芸繊維大学	35	東京大学	1	東北大学	1		

### 先端科学技術課程

京都コミュニティ放送	1	クリタス	1	スターライト工業	1	トーセ	1
類設計室	1	京都工芸繊維大学	6	首都大学東京	1	京都府立医科大学	1

## 大学院工芸科学研究科博士前期課程

### 応用生物学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
アース製薬	1	イーピーエス	1	ウエ・ルコ	1	エースコック	1
大阪府立高校	1	奥野製薬工業	1	尾崎商事	1	小野薬品工業	1
兼弥産業	1	京都府	1	国際衛生	1	三和化学研究所	1
新日本科学	1	積水メディカル	1	卸味食品	1	ソヴリックコーポレーション	1
タカラベルモント	1	多木化学	1	谷村実業	1	TFB ファクトリーズ	1
電算	1	ナリコマエンタープライズ	1	日本製粉	1	日本コルマー	1
日本写真印刷	1	日本食研ホールディングス	1	日本たばこ産業	1	農林水産省	1
ファイン	1	藤森工業	1	ベルシステム 24	1	マリンフード	1
丸大食品	1	明和グラビア	1	山崎製パン	1	リニカル	1
京都工芸繊維大学	2						

### 生体分子工学専攻

アストラゼネカ	1	ADEKA	1	荒川化学工業	1	ケニス	1
湖南市役所	1	ジーエルサイエンス	1	JMS	1	住化カラー	1
住友ゴム工業	1	豊田合成	1	ナリス化粧品	1	ニイタカ	1
日東電工	1	日本写真印刷	1	日本写真印刷	1	日立化成工業	1
三菱重工業	1	三菱電機	1	陽進堂	1	京都工芸繊維大学	2

### 高分子機能工学専攻

出雲村田製作所	1	オー・ジー	1	岡谷銅機	1	花王	1
協立化学産業	1	グンゼ	1	ジェイ・エス・エル	1	鳥津製作所	1
鳥津製作所	1	シャープ	1	ジャムコ	1	松風	1
ショウワグループ	1	住友ゴム工業	1	住友ゴム工業	1	住江織物	1
積水化学工業	1	積水化成工業	1	タイガー魔法瓶	1	大気社	1
タカタ	1	チッソ	1	東邦高等学校	1	豊田合成	1
ナカライテスク	1	ニッタ	1	日本ペイント	1	日本ゼオン	1
パナソニック	1	日立システムバリュー	1	日立製作所	1	堀場製作所	1
三菱樹脂	1	明成化学工業	1	横浜ゴム	1	リンテック	1

物質工学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
朝日放送	1	ADEKA	1	岩谷産業	1	エスケーエレクトロニクス	1
FCM	1	オリエント化学工業	1	京セラ	1	京都製作所	1
黒崎播磨	1	コーデンシ	1	コニシ	1	サカタインクス	1
阪本薬品工業	1	ジーエスユアサ コーポレーション	1	JSR	1	ジェイ・パワー・システムズ	1
住友ゴム工業	1	積水樹脂	1	ダイキン工業	2	WDB エウレカ	1
東洋紡績	2	東レ	1	トヨタ自動車	1	名古屋市消防局	1
ニチアス	1	日油	1	日東化成	1	日東電工	1
日本板硝子	1	日本エイアンドエル	1	日本ケミコン	1	日本触媒	1
日本電気硝子	2	日本特殊陶業	1	日本ペイント	3	日本写真印刷	1
ネオス	1	ノリタケカンパニーリミテド	1	ハイレックスコーポレーション	1	日立化成ポリマー	1
日立マクセル	1	富士通関西システムズ	1	古河 AS	1	マツイカガク	1
美濃窯業	1	明成化学工業	1	ヨータイ	1	ローム	1

電子システム工学専攻

アルバック	1	エネゲート	1	エルピーダメモリ	1	オムロン	1
川崎重工業	1	関西電力	3	キヤノン	1	紀陽情報システム	1
KDDI	1	サンエー電機	1	シャープ	1	住友重機械	1
ダイキン工業	1	東海所客鉄道	1	東京電力	1	日本写真印刷	1
パナソニック	2	富士ゼロックス	1	堀場製作所	2	三菱電機	3
UD トラックス	1	リコー	1	ローム	1	京都工芸繊維大学	3

情報工学専攻

NTT ソフトウェア	1	NTT ドコモ	1	NTT ネオメイト	1	オムロンソフトウェア	2
カゴヤジャパン	1	関西電力	1	京セラ	2	京セラミタ	1
ケイ・オプティコム	1	コベルコシステム	1	島津製作所	1	SKY	1
住商情報システム	1	ソフトウェア興業	1	ダイキン工業	1	TIS	1
東芝	1	西日本旅客鉄道	1	日本コンピュータシステム	1	任天堂	1
パナソニック電工	1	パナソニック電工インフォメーションシステムズ	1	日立情報通信エンジニアリング	1	富士通アドバンストエンジニアリング	1
富士通テン	1	堀場製作所	1	三菱自動車工業	1	三菱電機	1
三菱電機コントロールソフトウェア	1	三菱電機情報ネットワーク	1	山佐	1	リコー	1
京都工芸繊維大学	1						

機械システム工学専攻

アイシン精機	1	イクロス	1	エクセディ	1	川崎重工業	1
キャタピラー・ジャパン	1	キヤノンマシナリー	1	京都製作所	1	極東開発工業	1
神戸製鋼所	1	光洋サーモシステム	1	JR 西日本テクノス	1	島津製作所	1
スズキ	1	ダイキン工業	1	大研医器	1	ダイハツ工業	1
ツバキエマソン	1	椿本スプロケット	1	デンソー	2	東洋製織	1
東レ	1	TOWA	1	トヨタ自動車	1	ナイス	1
日新工機	1	日本硝子	1	日本ケーブル	1	日本電産	2
パナソニックエレクトロニクスデバイス	1	パナソニックサイクルテック	1	パナソニック電工	2	富士ゼロックス	1
ブラザー工業	1	堀場製作所	1	三井造船	1	三菱自動車工業	1
三菱重工	1	三菱電機	4	三菱電機エンジニアリング	1	三菱電気ビルテクノサービス	1
村田製作所	3	モリタホールディングス	1	ヤマザキマザック	1	京都工芸繊維大学	1

デザイン経営工学専攻

内田洋行	1	エスケー化研	1	kccs マネジメントコンサルタント	1	KDDI	1
GK 京都	1	シマノ	1	セコム	1	タイ王国政府	1
電通	1	西松屋チェーン	1	ニッセン	1	パナソニック電工	1
フジシール	1	富士通デザイン	1	三菱自動車工業	1	京都工芸繊維大学	1

造形工学専攻

旭化成ホームズ	1	ILYA	1	大津市	1	共同設計	1
コイズミ照明	1	国際確認検査センター	1	JR 西日本コンサルタンツ	1	積水化学工業	1
タカミコーポレーション	1	パナホーム	1	防衛省	1	三井ホーム	1
山本興業	1	吉住建築工作舎	1				

建築設計学専攻

鹿島建設	1	共同設計	1	久米設計	1	清水建設	1
住友林業	1	大和ハウス工業	1	竹中工務店	1	東畑建築事務所	1
日建設計	2	日本設計	1				

デザイン科学専攻

アイレムソフトウェアエンジニアリング	1	一条工務店	1	京セラ	1	京都府庁	1
新日本カレンダー	1	西安科技大学	1	ニプロ	1	パナソニック	1
モンベル	1	ミュンヘン大学	1				

先端ファイブ科学専攻

浅田製瓦工場	1	クオドラントプラスチックコンポジットジャパン	1	シティ・コム	1	シンワ	1
住友電装	1	太平洋工業	1	大洋興業	1	中国塗料	1
DIC	1	東英産業	2	東海高熱工業	1	東拓工業	1
トヨタ車体	1	中本パックス	1	西日本旅客鉄道	1	ニッタ	1
日本エイアンドエル	1	日本大昭和板紙	1	パトライト	1	日立アプライアンス	1
日立電線	1	富士ゼロックス	1	富士紡ホールディングス	1	三菱電機	1
村田製作所	1	YKK AP	1	京都工芸繊維大学	7		

大学院工学科学研究科博士後期課程

生命物質科学専攻

企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数	企業名等	人数
ANBAS(既)	1	滋賀県工業技術総合センター(既)	1	東レリサーチ(既)	1	ハノイ医科大学(研究者)	1
弘前大学(医学部:ポスドク)	1	ホーユ(既)	1	大和製織(既)	1		

設計工学専攻

ケイミュー	1	立命館大学	1				
-------	---	-------	---	--	--	--	--

造形工学専攻

富山県立近代美術館	1	名古屋大学(既)	1				
-----------	---	----------	---	--	--	--	--

先端ファイブ科学専攻

味の素(既)	1	出光テクノファイン	1	大阪成蹊大学(既)	1	関西 TLO	1
京都工芸繊維大学(ポスドク)	1	京都大学(ポスドク)	1	三晶	1	住友化学(既)	1
住友化学(既)	1	帝人(既)	1	TPE テクノロジー(既)	1	Department of Textile Engineering, Faculty of Engineering, Rajamangala University of Technology Thanyaburi(既)	1
東洋紡績	1	中本パックス	1	日本ポリプロ	1		
廣瀬製紙	1	松潮物流	1	三菱エンジニアリングプラスチック(既)	1		

ここに謹んで哀悼の意を表します。

## 物故会員

本誌編集期間中に事務局へご連絡いただいた会員物故者は、次の方々です。  
故人のご冥福をお祈りします。(敬称略)

# 同窓会費の納入について

## 1. 同窓会費の役割等について

- (1) 「KIT 同窓会」は、会員相互の交流と親睦を図り、もって母校の発展、学術文化及び産業の振興に寄与することを目的とし、会員の皆様方からの年会費のほか、寄付金(賛助金)等により、「KIT 同窓会」の充実・発展・運営・活動を実行して参ります。このことは本会のみならず、母校への強い支援になります。今後とも会員の皆様方のご支援・ご協力をお願いします。
- (2) 平成 22 年度定期総会において、会則の一部改正が行われ、「年額制」(3,000 円)に加え、「終身会費制」(30,000 円)が導入されました。
- (3) 新同窓会設立(平成 18 年度)以後に納入された年会費を終身会費額に至る一部としてカウントしております。
- (4) 長期間にわたり会費未納の会員の方は何卒同窓会費納入にご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 2. 同窓会費の納入状況について

- (1) 終身会費制が導入されたことに伴う各位の平成 18 年度以降の年会費納入済額については、直接事務局にお問い合わせください。
- (2) 平成 23 年度年会費又は終身会費が納入済の方には、会費納入の払込取扱票を同封していません。
- (3) 次に記載の方は、平成 22 年度に終身会費が納付済みとなられた方です。

## 3. 終身会費納入済の方〔順不同・敬称略〕

氏 名	卒 業 学 科	卒 業 年	氏 名	卒 業 学 科	卒 業 年	氏 名	卒 業 学 科	卒 業 年

## 4. KIT 同窓会年会費・前納会費納入者報告〔順不同・敬称略〕

- (1) 平成 23 年 3 月 31 日までに、平成 22 年度以降の年会費を納入された方は下記のとおりです。なお、終身会費納入済の方は、平成 23 年度以降の会費納入済の再掲載を省略しております。
- (2) 記載漏れ等お気付きのことがございましたら事務局にご一報ください。調査のうえご連絡申し上げます。

### 平成 22 年度(2010)の年会費納入済の方

工 芸 学 部

色 染 科

色染工芸学科

陶磁器科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

人造繊維科

化学工業科



工業化学科

物質工学科

図案科

意匠工芸学科

建築科

建築工芸学科

建築学科

住環境学科

造形工学科

機織科

紡織科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電気科

電気工学科

電子工学科

電子情報工学科

繊維学部

養蚕科

養蚕学科

蚕糸生物学科

応用生物学科

蚕種科

繊維農業科

製糸科

製糸紡績学科紡績学専攻

製糸紡績科

紡織科

繊維工学科

繊維化学科

高分子学科

デザイン経営工学科

蚕業実科

蚕糸別科

繊維別科 農場実習生

工業短期大学部

化学工業科

工業化学科

機械電気科

機械工学科

電気工学科

写真工学科

工芸科学部

応用生物学課程 生体分子工学課程 物質工学課程 情報工学課程

造形工学課程

先端科学技術課程

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業生以外の修了生)

先端ファイブロ科学専攻

電子情報工学専攻

機械システム工学専攻 工業化学専攻

物質工学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

高分子機能工学専攻

機能科学専攻

材料科学専攻

デザイン科学専攻

平成23年度(2011)の年会費納入済の方

工芸学部

色染科

色染工芸学科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

意匠工芸学科

建築科

建築工芸学科

建築学科

住環境学科

造形工学科

機織科

紡織科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電 気 科

電 気 工 学 科

電 子 工 学 科

電 子 情 報 工 学 科

織 維 学 部

養 蚕 科

養 蚕 学 科

蚕 種 科

蚕 糸 生 物 学 科

織 維 農 業 科

製 糸 科

製 糸 紡 績 学 科 紡 績 学 専 攻

製 糸 紡 績 科

紡 織 科

織 維 工 学 科

織 維 化 学 科

高 分 子 学 科

応 用 生 物 学 科

デ ザ イン 経 営 工 学 科

蚕 業 実 科

蚕 糸 別 科

織 維 別 科

工 業 短 期 大 学 部

化 学 工 業 科

工 業 化 学 科

機 械 電 気 科

機 械 工 学 科

電 気 工 学 科

写 真 工 学 科

工 芸 学 部

情 報 工 学 課 程

造 形 工 学 課 程

先 端 科 学 技 術 課 程

大学院(工学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業生以外の修了生)

先端ファイブ科学専攻

電子情報工学専攻

工業化学専攻

物質工学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

機能科学専攻

材料科学専攻

平成 24 年度(2012)の年会費納入済の方

工 芸 学 部

色染工芸学科

窯 業 科

窯業工芸学科

無機材料工学科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

意匠工芸学科

建 築 科

建築工芸学科

建 築 学 科

住 環 境 学 科

造 形 工 学 科

紡 織 科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機 械 工 学 科

機械システム工学科

電 気 科

電 気 工 学 科

電子工学科

電子情報工学科

繊維学部

養蚕科

養蚕学科

糸系生物学科

蚕種科

繊維農業科

製糸科

製糸紡績学科紡績学専攻

製糸紡績科

紡織科

応用生物学科

繊維工学科

繊維化学科

高分子学科

デザイン経営工学科

繊維別科

工業短期大学部

化学工業科

工業化学科

機械電気科

機械工学科

電気工学科

写真工学科

工芸科学部

情報工学課程

造形工学課程

先端科学技術課程

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業生以外の修了生)

先端ファイブ口科学専攻

電子情報工学専攻

工業化学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

造形工学専攻

機能科学専攻

平成25年度(2013)の年会費納入済の方

工芸学部

色染工芸学科

窯業科

窯業工芸学科

無機材料工学科

化学工業科

工業化学科

物質工学科

意匠工芸学科

建築科

建築工芸学科

建築学科

住環境学科

造形工学科

紡織科

機織工芸学科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機械工学科

機械システム工学科

電気工学科

電子工学科

電子情報工学科

繊維学部

養蚕科

養蚕学科

蚕糸生物学科

繊維農業科

製糸科

製糸紡績学科紡績学専攻

製糸紡績科

応用生物学科

繊維化学科

高分子学科

繊維別科

工業短期大学部

工業化学科

機械電気科

機械工学科

電気工学科

写真工学科

工芸科学部

造形工学課程

先端科学技術課程

大学院(工芸学・工芸科学)研究科(工芸学部卒業生以外の修了生)

先端ファイブロ科学専攻

電子情報工学専攻

工業化学専攻

建築工芸学専攻

住環境学専攻

機能科学専攻



平成 26 年度(2014)の年会費納入済の方

工 芸 学 部

色染工芸学科

窯業工芸学科

化学工業科 工業化学科

無機材料工学科

物質工学科

意匠工芸学科

建 築 科 建築工芸学科

建 築 学 科

住 環 境 学 科

造 形 工 学 科

紡 織 科

精密機械科・機械科

生産機械工学科

機 械 工 学 科

機械システム工学科

電 気 工 学 科

電 子 工 学 科

電子情報工学科

織 維 学 部

養 蚕 科 養 蚕 学 科

蚕糸生物学科 織維農業科 製 糸 科

製糸紡績学科紡績学専攻 製糸紡績科

応用生物学科

織 維 化 学 科

高 分 子 学 科

織 維 別 科

工業短期大学部

工業化学科 機械電気科 機械工学科 写真工学科

工 芸 学 部

造形工学課程 先端科学技術課程

大学院工芸科学研究科

先端ファイブロ科学専攻 電子情報工学専攻 機能科学専攻

平成 27 年度(2015)の年会費納入済の方

工 芸 学 部

建築工芸学科 住 環 境 学 科 生産機械工学科

# 京都工芸繊維大学同窓会会則

制定 平成18年 6月17日  
改正 平成20年 6月28日  
改正 平成22年 7月 3日

## (設立趣旨)

京都工芸繊維大学工芸学部と同繊維学部は、100有余年の長い伝統を持ち、両学部の卒業生はそれぞれ京都工大(工芸学部)と衣笠同窓会(繊維学部)を組織して、同窓生の交流を深めているところである。平成18年4月1日付けで、工芸学部と繊維学部を統合して、工芸科学部に改組再編されたことに伴い、工芸科学部の在学生及び卒業生を支援し、前身両学部の諸先輩との交流を深めるため、新たな同窓会を設立することとした。本会は、京都工大と衣笠同窓会との密接な連携と協力のもとで各種の事業を行うことにより、在学生・卒業生・教職員の交流と親睦を図り、もって母校の発展、学術文化および産業の振興に寄与することを目的とするものである。

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 本会は、京都工芸繊維大学同窓会〔略称：KIT 同窓会〕(以下「本会」という。)と称する。

### (事務所)

第2条 本会の事務所(以下「事務局」という。)は、これを京都工芸繊維大学(以下「母校」という。)松ヶ崎キャンパス北隣にある同窓会パビリオン内に置く。

### (支部)

第3条 本会には、支部を置くことができる。

2 支部に関する規則は、別に定める。

## 第2章 目的、事業及び個人情報保護

### (目的)

第4条 本会は、会員相互の交流と親睦を図り、もって母校の発展、学術文化及び産業の振興に寄与することを目的とする。

### (事業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 総会、懇親会及び、その他会員の交流と親睦を図る会合
- (2) 会員名簿の維持管理
- (3) ホームページの作成及び維持管理
- (4) 会誌等の図書刊行
- (5) 母校の教育・研究の充実に対する援助
- (6) その他本会の目的達成するために必要な事業

### (個人情報保護)

第6条 本会は、会員の個人情報を保護するため、京都工芸繊維大学同窓会個人情報保護方針を、別に定める。

## 第3章 会員及び会費

### (会員)

第7条 本会員は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 正会員 母校の学部卒業生及び大学院修了生、又その前身校の卒業生及び修了生、当該母校に学籍を置いた者で正会員の推薦により理事会で承認された者
- (2) 学生会員 母校の学生で前号によらない者
- (3) 特別会員 第1号の規定によらない、母校の現教員及び職員
- (4) 名誉会員 理事会が特に認めた者

### (会費)

第8条 正会員、学生会員の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正会員は、年額金3,000円を納付する。
- (2) 会費を前納する前納会費制を設定する。前納会費は、1年分3,000円、2年分5,700円、3年分8,400円、4年分11,100円、5年分13,800円とする。
- (3) 学生会員のうち工芸科学部学生は5,000円、大学院学生は3,000円をそれぞれ在学中の会費として、入学時に納付する。
- (4) 正会員の中で、終身会費として30,000円を納付することができる。ただし、工芸科学部入学時に、学生会費5,000円と賛助金15,000円を納付した場合は、さらに10,000円を納付することにより永久会員とする。
- (5) 特別会員及び名誉会員は会費を納めることを要しない。

## 第4章 役員及び職員

### (役員)

第9条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 若干名
- (3) 理事 100名から150名程度
- (4) 支部長 若干名
- (5) 監事 2名
- (6) 顧問 若干名
- (7) 専務理事 1名

### (役員選出)

第10条 第9条に基づく役員候補者の選出は、次の各号による。

- (1) 会長候補は、理事の互選による。
  - (2) 副会長候補は、会長によって指名され、理事会の承認を必要とするものとする。
  - (3) 理事候補は、課程・学科(専攻)単位、卒業(修了)年単位別、また、学内及び学外の選出区分に従い理事会で選出するものとする。また支部長は理事候補とする。
  - (4) 特別会員は、理事会の議を経て理事候補とすることができる。
  - (5) 監事候補は、理事会によって理事の中から選出するものとする。
  - (6) 顧問候補は、理事会によって選出するものとする。
  - (7) 専務理事候補は、会長によって指名され、理事会の承認を必要とするものとする。
- 2 第9条の規定に基づく役員は、前各号で選出された候補者を総会に提案して決定するものとする。
- 3 京都工芸繊維大学学長を本会名誉会長として推挙する。

### (役員の任期)

第11条 第9条の規定に基づく、役員の任期は2年とする。ただし、会長の再任は認めない。

2 役員に欠員が生じた時は、必要に応じて後任者を選出し、補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (役員の仕事)

第12条 会長は、本会を代表し、会務の統轄及び総会招集を行う。

- 2 副会長は、会長を補佐する。会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名した副会長が、その任務を代行する。
- 3 理事は、理事会を組織して重要会務を審議し、総会の議決に基づき、事業の遂行に協力する。
- 4 支部長は、支部を代表し支部の会務を執行するとともに、事務局との連絡を密にして本会の事業に協力する。
- 5 監事は、本会財産の監査及び事務局執行状況の監査を行い、理事会及び総会で報告するものとする。
- 6 顧問は、理事会の諮問に応じ、意見を述べる。
- 7 専務理事は、本会に関する事務を統轄し、事務及び事業を処理する。

## 第5章 会議

### (会議)

第13条 会議は、定期総会、正副会長会議及び理事会とし、議事は、出席者(委任状を含む)の過半数をもって決する。

2 総会は、毎年1回会長によって招集され、次の事項を議決する。

### (1) 役員を選出

- (2) 事業計画、収支予算書並びに事業報告、収支決算書、貸借対照表及び監査報告
- (3) 会則変更
- (4) その他本会目的達成に重要な議案。

3 臨時総会は、理事会の要望に基づき開催できる。

4 正副会長会議は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。

5 理事会は、会長が招集し、次の事項を行うものとする。

- (1) 総会の議案の立案及び議決事項の執行
- (2) 事業計画、収支予算書並びに事業報告、収支決算書、貸借対照表及び監査報告
- (3) 役員候補の選出
- (4) 会則変更
- (5) その他本会の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認められた事項

## 第6章 資産、会計及び会計年度

### (資産及び会計)

第14条 本会の資産は、次のとおりとする。

- (1) 総会で承認のあった貸借対照表記載の財産
- (2) 年会費等の会費
- (3) 事業収入
- (4) 資産から生じる果実
- (5) 寄付金(賛助金)
- (6) その他の収入

### (会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

## 第7章 支部

### (支部)

第16条 本会は支部を置くことができる。

- (1) 支部の設置は、総会において承認する。
- (2) 各支部に支部長1名を置く。
- (3) 支部の経費は、支部所属会員の負担とする。ただし、理事会において支部援助を認めた場合に限り、支部援助金を交付することができる。

## 第8章 総務委員会

### (総務委員会)

第17条 総務委員会を置くことができる。

- (1) 総務委員会は、会長・副会長及び理事で構成する。
- (2) 総務委員会に総務委員長を置くことができる。
- (3) 総務委員会は本会の運営に必要な事項を検討する。
- (4) 総務委員会は定期総会、正副会長会議及び理事会に諮る議案を検討する。

### 附則

1 この会則は、平成18年6月17日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 この会則は、工芸科学部の当該学生が、平成22年3月に卒業した時点で、改めて見直すものとする。

3 第10条第1項第1号の規定による会長が選出されるまでの間、会長の任務は京都工芸繊維大学学長が、本同窓会事務取扱として、会長を代行するものとする。

4 第2条の規定による「事務局」は、当分の間、3号館3階338号室に置くものとする。

### 附則

1 この会則は、平成20年6月28日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 学長が本同窓会会長事務取扱を辞任した後、工芸科学部第一期生が出るまでの期間は、第9条第1号に掲げる会長を会長代行と読み替えるものとする。

3 現に工芸科学部に在学する当該学生が卒業する平成22年には、第10条第1項第1号の規定による会長を選出するものとする。

### 附則

この会則は平成22年7月3日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

# 京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会)「支部」の 申請について

平成 22 年度の定期総会において、KIT 同窓会の下に支部を置くことが承認されました。

KIT 同窓会の下で支部の設立を希望される場合は、下記の申請書の体裁(A4 判)により同窓会事務局までご連絡下さるようお願いいたします。なお、KIT 同窓会の支部としての設置は、同窓会総会での承認が必要となることをご承知下さい。

## 記

申請日： 年 月 日

京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会) 会長 殿

京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会)  
支部申請書

支 部 名	フリガナ	
支部事務局の所在地	フリガナ 〒	
責任者名		
連絡先	Tel: Fax:	E メールアドレス
会 員 数		
支部組織の趣旨		
備 考		

## お詫びと訂正のお願い

平成 22 年 4 月に発行いたしました「会誌No4」の物故会員の記事において、事務局の不注意による不手際により次に記載の 4 名の方をご健在にも関わらず物故会員として掲載し発行する事態となりました。このことは、ご本人様をはじめ、関係者各位ならびに会員の皆様に多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

今後はこのようなことのないよう、より一層の管理体制を徹底してまいりますので、ご寛容のほどよろしくお願いいたします。

## 編集委員

五十音順 (\*本号編集委員長)

伊藤一雄	短機電昭36年卒	副会長
老田達生	色染 昭51年卒	理事 物質工学部門准教授
櫛 勝彦	意匠 昭57年卒	理事 デザイン学部門教授
谷垣弘明	製紡 昭43年卒	副会長
中村 淳	建築 昭32年卒	副会長
中森伸行	電気 昭47年卒	理事 情報工学部門教授
西田秀利	生機 昭56年卒	理事 機械システム工学部門教授
本城博一	建築 昭23年卒	会長
三好 明	織化 昭31年卒	副会長
森 肇	蚕生 昭57年卒	理事 応用生物学部門教授
*森本一成	電子 昭51年卒	理事 先端ファイブロ科学部門教授
矢ヶ崎善太郎	建築 昭58年卒	理事 建築造形学部門准教授
山根秀樹	織化 昭54年卒	理事 バイオバースマテリアル学部門教授
事務局	志賀 均	KIT ビューロー
	河原政博	KIT ビューロー
	寺田一美	

## 編集後記

3月に入り学内の梅はほぼ満開になりましたが、例年のように寒の戻りで松ヶ崎の草木も引き締まり、ピンと張りつめた空気があります。昨年、総務委員長をお引受けし手探りで同窓会業務に携わってきましたが、事務室移転や会誌編集などの作業で早くも半年が過ぎてしまいました。今後も会員の皆様方と一緒に同窓会の発展に努力したいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最近の大学の環境変化について少しご紹介いたします。西構内北側の出入り口は広くなり車イスの出入りも可能なようにスロープも併設されています。同じように南側出入り口も同様の車イス対応になっています。これまで中央門まで遠回りしなければならなかった車イス利用の学生には便利になりました。何と言っても友達と一緒に通れるようになったことはうれしいことです。建物につきましては、耐震工事もほぼ終わり室内什器の固定などの安全対策が取られつつあります。また、本誌でも紹介されていますように、東構内の 60 周年記念館の北側に京都ノートルダム女子大学の講義

室が出来て、4月から使用されるという他大学では例のない画期的なことが実現しました。

事務体制についてご紹介いたします。昨年、上田専務理事が病気のため入院され、現在も療養中です。このため KIT 同窓会の事務作業を KIT ビューローの志賀さまと河原さまに助けて頂きました。KIT ビューローの皆様 の腰を痛めんばかりの献身的な支援により、3号館(旧工芸本館)にありました同窓会事務室を工織会館の敷地内にあります同窓会パビリオンへ移転することができました。その際には、運ぶのを諦めていました大きな机と椅子をパビリオンの一室に搬入して頂きました。また、会誌5号の編集作業では記事の収集からチェックなど細かな点にまで目を配って頂き、御陰さまで何とか期日内の発行にこぎ着けることができました。感謝に堪えません。この場をお借りして御礼申し上げます。

最後に、次号からの会誌につきましては内容を見直し、新たな記事掲載について検討したいと思っておりますので、会員諸氏のご提案を期待しております。 編集委員長 森本 一成

## 目次

会告	
ご挨拶	1
江島義道 本城博一 林 哲介	
竹永睦生 森迫清貴 中村 淳	
伊藤一雄 谷垣弘明 三好 明	
KIT 同窓会定期総会及び懇親会報告	8
同窓会パビリオンのご紹介	11
KIT 同窓会教育支援事業	12
国際遺伝子改変マシンコンテスト参加 プロジェクト：ベストポスター賞受賞	
機械システム工学課程のJABEE 認定教 育システムについて	
先端ファイブ科学シンポジウムならび に公開講演会	
寄稿	16
「松ヶ崎デザイン会」－多彩な デザイン・マインドの萌芽を踏まえて	
衣笠祿栄会 琵琶湖例会	
人間 本野精吾教授－そのデザイン 力とヒューマンズム	
お知らせ	20
平成23年度衣笠同窓会 理事会・総会のご案内	
衣笠同窓会大阪支部例会のご案内	
KIT ゴルフ会会員募集	
京都工芸繊維大学能楽部OB会交朋会	
大学だより	21
留学生パーティー	
平成 21 年度文部科学省大学教育充実のための 戦略的連携支援プログラム採択「文化芸術都市京都の 文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」	
美術工芸資料館の活動	
グリーンイノベーションと新専攻	
昆虫バイオメディカル教育研究センター 設立について	
京都工芸繊維大学名誉博士号を贈呈	
松ヶ崎キャンパスに国立大学初の建物が竣工	
創立記念日事業を実施しました	
「60周年記念館」を新設	
「KIT HOUSE」をオープン	
教育研究推進支援機構について	
本学の教育研究組織と教育研究プロジェクトセンターについて	
駐車場・バイク置場の整備	
開かれた大学	37
機器分析センター	
市民講座・先端技術講座「最先端技術で ものを観る」を開催	
平成 22 年度「市民体験講座」と「グリーン探検隊」	
本学の就職支援について	
大学一日体験入学を実施しました	
課外活動	42
アメリカンフットボール部	
バドミントン部・女子ラクロス部	
空手道部・茶道部・奇術部・漫画研究部	
アメリカ民謡研究会 B&Bo	
叙位・会員・教員の受賞	44
教員の異動	44
平成22年度博士学位取得者と学位論文題名	45
卒業生・修了生の就職先・進学先	47
物故会員	49
同窓会費の納入について	50
京都工芸繊維大学同窓会会則	60
京都工芸繊維大学同窓会 (KIT 同窓会)「支部」の申請について	
お詫びと訂正のお願い	
編集委員	
編集後記	
卒業証明書等のお申し込みについて	

## 卒業証明書等のお申し込みについて

各種証明書のお申込みは、郵送または学務課窓口でのみ受け付けています。

### ●郵送での申込み方法

以下の3点を同封し、封筒に「証明書発行願在中」と朱書きのうえ、郵送してください。

①証明書発行願(以下の事項を記入してください)

- ・氏名・生年月日
- ・学部・学科名/研究科・専攻名
- ・入学年月、卒業(修了)年月
- ・学生番号(省略可)
- ・必要な証明書の種類と部数(例 卒業証明書 英文1通)
- ・使用目的、提出先
- ・郵送先住所、連絡の取れる電話番号

②本人確認書類(運転免許証など)のコピー

③返信用封筒(送付先の住所・氏名を明記し、切手を貼ってください)

※お申込方法の詳細及び証明書発行願様式は、大学 HP にも掲載しています。

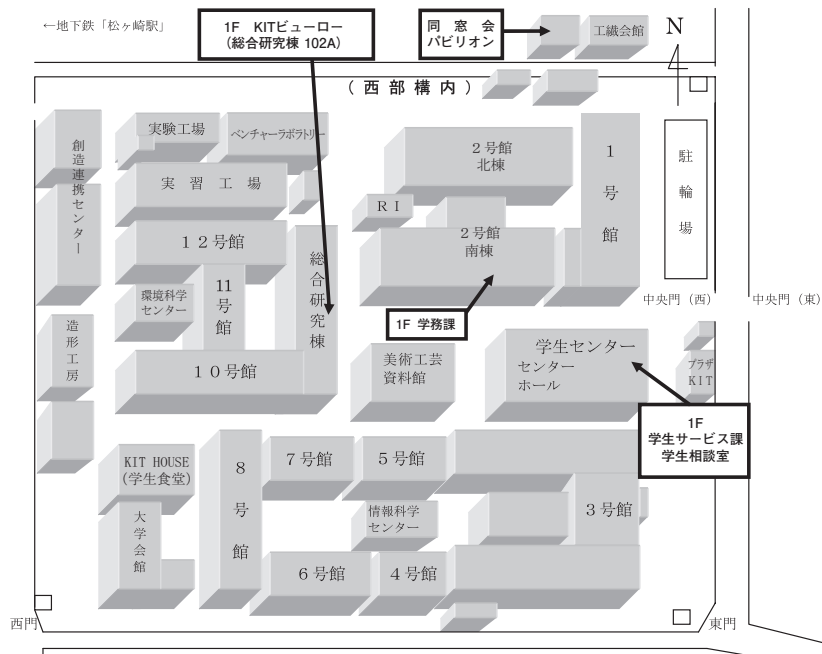
<http://www.kit.ac.jp/>

### ●学務課窓口

学務課は、西部構内2号館南棟1階にあります。(美術工芸資料館の北側建物)

### ●送付・問い合わせ先

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町 1  
京都工芸繊維大学学務課学務調査係 宛  
TEL:075-724-7117



### 京都工芸繊維大学同窓会 会誌 No. 5

平成23年4月発行

発行所 京都工芸繊維大学同窓会  
(略称「KIT 同窓会」)

〒606-0956 京都市左京区松ヶ崎  
鞍馬田町15-1

Tel/Fax(075)724-7232

e-mail: kit-obog@jim.kit.ac.jp

HP <http://www.kit-obog.kit.ac.jp>

KIT ビューロー Tel(075)724-7972

振替口座 00960-3-224524

印刷所 (株)北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

Tel:075-791-6125 Fax:075-791-7290